
Monster Carp Fishing in Japan

– Diary –

Archives “Friends”

MCF Japan

www.mcfjapan.net

目 次

地鶏さんと多摩川	2016.5.21	mi○	1
復活！！荒川	2015.10.10	mi○	4
地鶏さんと北浦釣行	2014.10.10～12	mi○	8
地元の鯉師達	2014.5.6	mi○	11
北浦で一泊釣行	2013.9.21～22	mi○	13
with H まんきんたんさん	2013.6.28～30	mi○	17
GW 荒川 いつものメンバー	2011.4.30	mi○	20
荒川シーズンイン	2010.3.14	ぼらひで	24
隅田川の鯉よお	2010.2.14	ぼらひで	26
荒川釣り日和	2008.5.16	mi○	29
隅田川寒鯉釣行会	2008.2.9	mi○	32
朝ごはんが食べられません	2007.8.24～27	mi○	38
北浦釣れないプチ釣行記	2007.7.21～22	mi○	41
宇都宮忘年会	2005.12.17	mi○	45
晩秋の荒川に集合！	2005.11.19	mi○	48
居酒屋「地鶏」霞ヶ浦に出店	2005.4.22～24	mi○	52

トムとマッチョと mi○と	2005.4.9～10	mi○	57
地鶏オヤジさんの巨鯉釣り教室	2004.9.3～5	mi○	60
寒い北浦で	2004.6.25～27	mi○	66
GW 利根川釣行記	2004.5.2～4	mi○	70
新春荒川釣行会	2004.1.3	mi○	74
連敗脱出！荒川釣行記	2003.11.23	mi○	78
帰国祝賀釣行	2003.7.9～13	ぼらひで・mi○	81
北浦&霞ヶ浦釣行	2003.4.27～29	ぼらひで&mi○	87
新春爆釣会	2003.1.4	mi○	91
宇都宮忘年会	2002.12.21	mi○	95
HP 開設祝賀パーティ	2002.9.1	ぼらひで、mi○	98
思い通りには／田舎はいいね～	2002.8.24～25	ぼらひで／山羊	105

地鶏さんと多摩川 2016.5.21 mi○



地鶏オヤジさんと2年ぶりに釣りをするチャンスに恵まれた。場所は多摩川。天気は快晴、そして大潮とコンディションは文句無し。唯一心配なのは多摩川に不慣れな私が場所を指定したこと。現地には7時ごろ到着した。

地鶏オヤジさんは随分前から都内のセカンドハウスで生活している。地鶏カーを置いてある本宅には釣り道具がすべて揃っているのはもちろんだが、セカンドハウスには最小限の海釣り用具があるだけ。今回は不足している餌と仕掛けだけ購入してやってきた。

一方私は、いつもの単独釣行なら遅く起きてのんびりと釣り場に向かうのだが、今日に限っては子供のように早く起きて釣り場にやって来た。友人と釣りをするのはいつでも楽しいものだ。



セッティングが終わって間もなく私にヒット。流れに乗って良く走る。寄せてみるとますますのサイズ。地鶏オヤジさんにすくっていただき、無事ランディング。マットの上で暴れる鯉を落ち着かせて記念撮影をした。

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

幸先のいい一本め。今日はどんだけ当たりがあるんだろうと期待して待っていると、再び私に当たり。やや軽い手応えながらこれも良く走る。少しするとガツンと仕掛けが止まる。根がかりだ。煽ってもどうしても外れず、泣く泣くラインをブレイクさせるとハリスから切れた。「鉤が口に残っちゃったなあ...」



地鶏オヤジさんは、ここしかないというポイントに絶妙なコントロールで餌を打ち込んでいるが、中々当たりが来ない。最初の当たりは午後になってから。落ち着いて竿を手に取り、余裕で寄せたのを私がランディング。「あ

れ？笑」鯉によく似た例の魚だった。残念！！

当たりを待っている間、お互いの近況など話しているとあっという間に時間が過ぎていった。

撤収間際に私に当たり！これは無事にランディングした。鉤を外した...と思ったが、なぜかもうひとつ鉤が口にかかっている。はじめに外した鉤はハリスが切れている。よく見ると私の仕掛け。ということは...、おそらく根がかりでばらした二本目の鯉に違いない。「へ～、同じ日に同じ鯉が釣れるんだ」と地鶏オヤジさんもびっくり。とにかく、鯉の口に残した鉤を回収することができて、後ろめたさがなくな

った。

午後3時、撤収完了。釣果は期待したほどではなかったが、久々に地鶏オヤジさんとゆっくり話し込むことができた。ところで、地鶏オヤジさんの写真を見て気がつくだろうか。毎日トレーニングを積んで、理想体重まで減量することができたとのこと。トレーニングのデータをスマホで見せてくれた。私と同じ年でありながらアスリート並みのトレーニングを毎朝続ける地鶏オヤジさんには心より敬意を表したい。

近いうちまた同行するチャンスがあることを祈りつつ釣り場を後にした。

復活！！荒川 2015.10.10 mi○

今週は荒川の橋の下。いつものようにぼらひでさんが一足先に現地
でセッティングを終了し、しばらくして私が到着した。到着してす
ぐに目に付いたのがぼらひでさんの竿。浅場に立てられた鉄パイ
プに船用の竿掛けを取り付けている。この鉄パイプの向こうの浅
場を攻めたいと以前から考えていたそうで、その結果今回のような姿
にたどり着いたという。



潮回りは中潮。朝の下げ潮の間が大きなチャンスとなる。今日はあ
ちらこちらで魚の跳ねやもじりが多く見られ、一段と期待が増してく
る。ぼらひでさんの餌は mainline の Essential IB。三本とも同じ餌
で浅場を攻める。一方私はマルキューの鯉夢想に缶詰コーンを混ぜた
だんご餌とコーンの食わせ餌。ぼらひでさんと対照的に日本の伝統的
な餌で浅場を攻める。

当たりが出だしたのは私の竿。しかしこの橋の下はゴロタが多く鯉
が走るとラインがスパッと切れてしまうことが多い。案の定午前中
にあった7回の当たりで2本しか取り込むことができなかった。魚影は
濃いが極めて難しい釣り場である。ぼらひでさんの方は、何度か空当
たりはあったが食い込むことはなく下げ潮の時間が過ぎてしまった。

Monster Carp Fishing in Japan – Diary

この釣り場は潮の状態に応じて魚の動きが面白いほど変化する。潮が下げ止まると共に、さっきまで目の前から沖まであった魚の動きが申し合わせたようにピタッとなくなった。年間を通して潮が下げるときの方が上げる時よりも当たりが多い傾向があるため、今回の釣果も概ね結果が出た感がふたりの胸の内にあった。



ところが今日は違っていた。潮が上げている午後2時過ぎ、突然私の竿に当たり。幸い掛かりのない方向に鯉が走ってくれたため、安心してやり取りできる。はじめはあまり手応えがなかったが手前に寄せるほど抵抗感が出てきた。ウェーダーを履いているぼらひでさんが水に入り込んでネットイン。「これ、結構いい型だよ！」と、ぼらひでさん。記念撮影をしてリリースした。

間も無くまた私に当たり。これも大きさを実感すること無くやり取りしていたが、次第にその重さがわかり最後は慎重に取り込み。「さっ



きより大きいんじゃない？」ぼらひでさん。

確かにネットのフレームと比べても結構いい感じ。ずんぐり太った鯉で、縦横比からすると見た目大きくは見えませんが水からあげ

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

ると重いつ！！久々に荒川の良型を目の当たりにした。

幼い子ども3人を連れてお母さんが近寄って来て、大きな鯉に大いに盛り上がる。鯉がおとなしくなった頃合いを見計らって持ち上げ、記念撮影。このサイズは私の荒川記録？その辺の記憶が定かではないが、とにかく嬉しい嬉しい一本が上がった。顔が丸っこい寸詰まりの感じは、荒川で時々見られる魚相の特徴。親子4人が見守る中、鯉は元気に水中に潜って消えた。

喜びが覚めやらない中、今度はぼらひでさんのセンサが鳴り響く。潮が上げて鉄パイプが水に浸かっている。ウェーダーを履いたぼらひでさんが、足元に注意しながら水の中を歩いていく。後で本人が言うには、こんな姿に憧れてウェーダーを買ったとか（笑）。



とにかく朝からずっと狙っていた浅場でやっと乗った鯉。鉄パイプから離れるように鯉を誘導し、広い場所でのやり取り。中々浮いてこない。時折激しくラインを引き出す。一瞬尾びれが見えた。

これはデカイ！カメラとネットを持った私は思わず「ここから慎重にね！」と声をかける。水中から徐々に岸に戻りながら空気を吸わせ、無事ネットイン。

その様子を見ていたさっきの親子が、またまた大騒ぎ。元気な鯉を

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

なだめながら記念撮影。こんな良型が荒川で続けてヒットするのは私は初めての経験である。「今年2回の大水が今回の大釣りに繋がったかも」と、ぼらひでさん。キャパが大きい荒川といえども、これほどの良型連発はそうあることではない。

この後当たりがパッタリと途絶え、午後4時終了。結果は数釣りの伝統餌と一発大物のボイリーとなった。

地鶏さんと北浦釣行 2014.10.10～12 mi○

金曜の昼前に、地鶏オヤジさんからメールが届く。

「今日（10日）から12日まで水郷に行こうと思います。竿出したらまたメールします。」

台風の影響で別の予定が急遽中止となり、釣りに計画を変更したとのことだった。その晩、再び地鶏さんからメール。

「北浦に着きました。久しぶりなので自分が良く知っている場所になりました。」

以前車から釣り道具をすべて降ろした私はすぐには出発できず、

「mi○です。明日の午前中に行きます。」と返信。

11日朝、北浦に向かっていると、地鶏さんから速報が入った。目の前の竿に当りがあって勢いよくラインが出ていたがすぐにストップ。竿を上げると、釣が曲がって広がっていたそう。なんか珍しいことが起こっているなあ（笑）。とにかく、当りがあることはいいことだ。

現地に着くと、地鶏カーが湖岸道路に見えた。地鶏さんは今年も忙しく、今回が今シーズン初の水郷釣行とのこと。車から出て来た地鶏さんと挨拶し、セッティングを始める。水位は昨夜から少し減ったとはいえ、護岸よりわずかに下がった程度で、いつもよりもだいぶ高い。風は穏やか。

当りがないまま日が暮れる。8時前、地鶏さんに待望の当り！難な



く取り込んだ今シーズンの初鯉。記念に写真撮影をしておいた。その後、地鶏カーにお邪魔して刺身を頂きながら、積もる話をとりとめもなくした。時間が過ぎるのを忘れて話し込んでいると、私の竿

に当り！竿を上げると、とても軽い手応え（笑）タモを濡らすのもためらうサイズだったが、基本通りネットイン。この当りを機に、すべての餌を打ち替えて寝ることにした。

その晩、午前2時、3時、3時半に当りがあり、2本上がったがサイズは今ひとつ伸びない。すっぽ抜けた1本も、手応えがなかった。おかげで、熟睡できたのは最後の当り以降になってしまい、7時半に遅い目覚めとなった。

最終日は台風が近づいている影響で、どんよりとした曇り空となった。しかし風は穏やか。水位は平常に戻っている。地鶏さんの方は、夜は全く当りがなかったとのことで、朝の当りを期待することとなった。今日は三連休の中日。昨日よりも明らかに交通量が多い。鯉師の車が多い気がする。周囲にも鯉釣りらしい車が何台か止まっているのが見える。水郷の鯉釣りは下火だったため、久し振りの光景である。外で風に当たっていると体が冷えて来る感じがするので、地鶏カーのドアのところに腰を掛け、車中の地鶏さんと話をして当りを待った。



9時前、地鶏さんに当り！ラインが勢いよく出て行く。竿を持った地鶏さんは、「軽いので、小さいタモを取ってください。」地鶏さんはいつも、通常のタモの他に、小さいナイロン糸のタモを用意している。網を濡らす程でないときは、こちらの小さい方を使うようにしている。

最後まで元気に逃げようとする鯉をネットイン。タモごと持ち上げて記念撮

影。「センサーが全く入らないよりまだいいか・・・」と苦笑いの地鶏さん。

10時半まで待ったが、ふたりとも次の当りがないため撤収。台風の接近がきっかけで、思いがけなく地鶏オヤジさんと竿を並べることができた北浦釣行であった。

地元の鯉師達 2014.5.6 mi○

GW 最終日、日没前の2時間だけ地元宇都宮で竿を出してみることにした。車にタックルを2セット積み込んで出発。釣り場に着くと数台の車が止まっている。もちろん鯉釣りの人達である。近くで車を降りると馴染みの顔がこちらにやって来る。BBさんとK島さん。さらに初めてお目にかかる宮っ子さんとFさんの4人に迎え入れて頂いた。



簡単に紹介すると、BBさんとK島さんは私が宇都宮で鯉釣りを始めた頃から釣り場でお世話になっている方で、特にK島さんは北浦で開催した第4回MCF オフ会にも参加して頂いた。宮っ子さんはこの釣り場の近くにお住まいで、「宮っ子の鯉師のブログ」を運営するブロガー。Fさんは地元と水郷で活動されているようだ。



話し込んでしまう前に、まずは自分のタックルをセッティング。念のために底探りをすると意外とウィードが多いことがわかった。ウィードの切れ目を狙って2本投入。時刻は16時半。餌は

SCOPEXのダブル。タックルは4.1mのフルフィールド石鯛にいつも通りABUのリール。

4人から今シーズンのこの川のコンディションについて色々教わったり、逆に私の方から最近の水郷のことを話したりして過ごす。今日は午前中雨だったこともあり、皆さん午後だけの短時間釣行とのこと。こうして話し込んでいるうちに誰か1本くらい当りがあることを期待したがどの竿も変化なし。

釣果はさておき、嬉しいことは地元の鯉師達の高いモチベーション。国内ではここ数年で鯉釣り離れが進行している感覚を持っていたが、こうして地元の川で新たに鯉釣り談義ができる仲間が少しずつでも増えることは、とても心強く感じた。

気がつくとう規定の2時間経過。日没とともに風の冷たさが身に染みて来る。本日の釣行はこれでお開きとなった。

北浦で一泊釣行 2013.9.21～22 mi○

自分にとってやっと秋のシーズンがやって来た。真夏かと思うような天候の中家を出発し、午後4時頃北浦湖畔に着いた。春に北浦で一緒にしたHまんきんたんさんが、前夜から北浦で竿を出しているとの情報。まずはその場所で車を止めた。ドッグ周りを攻めているが、この時期としては例年になく水質が良くないためか、当りが遠いとのことだった。

もう少しお話をしていたいと思いつつも、夕暮れ前には場所を決めなかったため、再び車を走らせた。途中スーパーで買い物をして、釣り場を決めたのが午後5時を回っていた。選んだ場所は難易度の高い乱杭周り。丹念に底探りをして、竿掛けの位置を決めた。餌を投入する頃にはすでに太陽が沈み、寂しげな北浦の夜景が浮かび始めていた。

中ソンさんからメールが入っていることに気づいた。水郷に向かっているらしい。いつもの青魚スポットに行くのだろうか？ 簡単な夕食を済ませたあと、自分が入っている場所を中ソンさんにメールし、ラジオを聞きながらいつの間にか眠りに入った。

突然、センサーが鳴り響き飛び起きた。久々に聞くと何やら懐かしささえ感じる。竿を持つと、手応えはさほどないがしっかりフッキングしているようす。リールを巻き始めると、暗闇から誰かの声が・・・中ソンさんだ。てっきり別の場所に入るとばかり思っていたため、聞

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

き覚えのある声だが一瞬「誰？」と思ってしまった。私が寝ている間に、隣に竿を出し終えていた。



中ソンさんにタモ入れして頂いた鯉は、タモ枠を楽々上回る80cm台。しかし手応えがイマイチだったのは、体が細いせい。「写真撮っておく？」と中ソンさん。幸先の良い一本目が最後の当たりということも確かにあり得る。「じゃあお願いします。」とカメラを中ソンさんに渡した。開ききった瞳孔にフラッシュがまぶしい(笑)リリースした後、湖を眺めながら小一時間ほど中ソンさんと話をした。0時を回ったところで解散。



翌朝も晴天。秋晴れというよりも、夏の早朝を思わせる空気。中ソンさんは底探りをして、昨夜と違う距離に餌を打ち直した。真夜中に到着したため、昨夜はとりあえず感覚的に餌を投入していたらしい。

朝8時。すでに日の当る場所にいるのが苦しい。車の日陰に隠れるようにして座り、こまめに水分を補給した。水面を見ていると、微風

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

になびくようにアオコが漂っていることに気がついた。それが時間とともにどんどん酷いことになり、まるで濃く入れすぎた抹茶状態になってしまった。この時期に、これほどの状態になるのは初めてのよう気がする。昨日、Hまんきんたんさんが「水質が悪い」と言っていたのはこのことだった。



こうなったら、釣果より鯉釣り談義とばかりに、中ソンさんと話し込んだ。2時間ほど経つと風向きが変わり、アオコが少しずつ流れていった。絶望的な状況から、少し当りを期待できる状況に好

転。午後の当りを待つとしよう！

昼12時。すっかりアオコが流れ去った中でセンサーが入る。竿に駆け寄るがラインが出ているようすもなく、どうやら空当り。午後1時、中ソンさんに待望のヒット！無事取り込んだが納得できないサイ



ズにつき、即リリース。2時半、さっき空当りした自分の竿にまた当り。今回はラインが出ている。乱杭の中に打ち込んでいたため巻かれないか心配して竿を手にしたが、杭から離れる方に走って

くれるお利口な鯉であった。

何度もラインを引き出す元気のある鯉だったが、上げてみると一本目よりもややサイズダウン。サイズの割には大いに楽しませてくれた。

3時半に撤収開始。一本目の竿を上げようとしていると、別の竿に当り。竿に駆け寄って合わせると、がっちり根掛かりしてしまった。鯉が付いている気配があるため竿掛けに戻して暫く放っておいたが、鯉の気配もなくなったため諦めてラインを切った。残念。やはりここは超難関スポット。

中ソンさんとは来月の水郷オフ会で再会の予定である。午後4時半、二人とも撤収を終え北浦を後にした。秋のシーズンはこれからである。

with H まんきんたんさん 2013.6.28～30 mi○

「今晚は」

メールの送信者は、Hまんきんたんさん。今まで長いおつきあいをさせて頂いているが、ウィークデーの連絡は珍しい。

「今週は水郷に来ること出来ますか？」

6月のMCFの更新に釣行記がないため、私が釣りに行っていないことに気付いて誘って下さったようだ。実際週末ごとに用事が重なり、5月の荒川オフ会から竿を出していない。前半戦釣りに行くとしたら今週しかないと思っていたところにお誘いメールだったため、すかさずOK！予想外の急展開で北浦に向かうことになった。

金曜夜遅く現地に着くと、先に竿を出しているHまんきんたんさんがステップワゴンから笑顔で登場。セオリー通り水門に竿を出している。私は少し離れたカーブにセットすることにした。もうだいぶ遅い時間だったため、セッティングが終わってすぐに眠りについた。

当りがないまま朝を迎えた。湿度が低く、カラッとした空気。Tシャツでは寒さを感じる。上着を来てHまんきんたんさんの車まで挨拶に行った。Hまんきんたんさんも夜の当りはなかったとのこと。そのまま暫く話し込んでいると、突然目の前の竿先が入った。ロッドポッドにセットした烈火からラインが出て行く。シマノ野鯉スペシャルが重厚なクリック音をはじき出している。実に快感！ベイトリールの魅力は、この瞬間かもしれない。



ロッドを手にしたHまんきんたんさん、手練の竿さばきであると言う間に鯉をネットに招き入れた。お見事！レギュラーサイズであることを確認した後、リリースまで細心のケア。そばで見ている私は、何枚もシャッターを切った。

ところで、Hまんきんたんさんをご存じない方のために簡単に紹介



させていただきます。MCF開設当初運営していた掲示板上で、「はなくそまんきんたん」という強烈なハンドルネームでデビュー。面識がないまま時が流れ、ある時偶然に利根川で隣に竿を出していた方が、はなくそまんきんたんさんだった。ダイワ烈火の赤い色がイメージカラー。今回は烈火と同じ深みのある色に特注で染め上げた玉網を披露して下さった。

日中も湿度が低い快適な天候が続き、ふたりで湖面を眺めながらあれこれと会話した。私の方が老けて見えるが、実は同年代であることもわかり、学生時代の音楽の話など大いに盛り上がった。ジャズ喫茶

などを知っているのは、もしかしたら私たちが最後の世代かもしれない。

その後、当りがないまま日が西の空に落ちた。夕方の当りに備え、それぞれ入念に餌を打ち替えた。どうか一本当りますように・・・

夕食後、車で横になっていると、待望のヒット！目の前の竿からラインがでていたが、駆け寄るとラインがストップ。「バレたか？」少し待っていると穂先が少し入ったのですかさずロッドを手にした。手



応えは軽いが少ないチャンスだけに慎重にランディング。小鯉のためタモに入れたままボウズ逃れの証拠写真を一枚。当りがこれから続いてくれると嬉しいのだが・・・

昨夜の睡眠不足のせいか、この夜は深い眠りに入り、気がつくと夜が明けていた。寝すぎて痛くなった腰をいたわりながら車からゴソゴソ這い出た。Hまんきんたんさんと挨拶。お互い夜中の当りは無し。

8時過ぎに一足先に私が退散することになった。釣果は残念だったが、この時期とは思えないスッキリした天気のでのんびり竿を出せたことは、実にラッキーだった。Hまんきんたんさん、また近いうちご一緒しましょう！

GW 荒川 いつものメンバー 2011.4.30 mi○

「今、どの辺ですか？」ひでさんからのメールに、「まだ自宅です（笑）お先にどうぞ」とメールを返したのが5時半を少し回った頃だった。後でひでさんに聞いたところ、この時既に荒川で竿をセットし終わった時だったそうだ。寝坊した私とは違って、ひでさんは朝から意気込みが違っている。



釣り場に到着すると、こぶちゃんやさきちゃんもセットが終了していた。早朝から鯉のもじりが見られたそうだが、まだ誰も当たりをもらっていないとのこと。ふと見ると、ひでさんは赤い竿を二

本だしている。近くに寄ると、ダイワ烈火のスピニング仕様。4.5mの扱いやすい長さの竿である。

「竿を移動するから、振ってみます？」とひでさん。

「それじゃ、お願いします。」

オモリだけで軽くキャストしてみる。スピニングを使うのは何年ぶりだろう？着水直前からベイトの癖で無意識にラインの出を指でコントロールしてしまう。竿の調子は、私のダイコー4.1m石鯛竿よりも全体的に張りが強いが、穂先に適度な柔軟性を持たせ、余裕で鯉を寄せられそうな感触である。

こぶちゃんやさきちゃんと暫く話をしてから、やっと自分の竿をセット。二本の竿の餌は一本はボイリー、もう一本はダンゴ+コーンを



つけた。こぶちゃんはすべて寄せダンゴ+コーン、ひでさんはボイリーと寄せダンゴ+コーン。この場所では圧倒的にコーン餌の実績が多いが、ボイリーでも良型が当たるときがある。

10時過ぎ、ひでさんに待望の当たり！烈火のコーンに喰ってきた！十分な体高で重量感ある鯉は77cm。ふと思いついてひでさんがセンサーをこの竿にセットした直後だった。もし付けていなかったら、当たりに気付くのが遅かったかも知れない。やはり今日のひでさんは、何か持っている。

こぶちゃんの竿からラインが勢いよく出ている。周りをみてもこぶちゃんがいらない！ブルーシートでうとうとしていたさきちゃんが急いで起き上って靴を履き、竿に駆け寄った。私もほぼ同時に駆けつけてスプールを押えてラインの出をコントロールしつつ、さきちゃんに竿を持ってもらった。少しラインを巻き取ったところで痛恨の根掛り！ラインを緩めるとスーっと軽く出ていくので、鯉が掛っているのは間違いない。そうこうしているうちにこぶちゃんが帰ってきて竿を受

け取る。

しばらくラインを出したり、巻き取って煽ったりを繰り返したがどうしても根掛りが外れない。もったいないが、やむを得ずラインを切ることにした。残念！

こぶちゃんの当たりと同時に、私とひでさんのセンサーが入ったが、ふたりとも空当たり。その後ひでさんは、コンスタントに当たりをもらった。二匹目、三匹目とも烈火のコーン餌に当たり。ユウ君がネットですくって親子共同作業。70センチ台と60センチ台の鯉で、腹にハタキ傷が入っている。毎年5月は荒川鯉の産卵期である。

午前中からずっと強い南風が吹きつけている。この時期なのになぜか風が冷たく感じる。



3時半前、ひでさんのカープロッドに当たり！餌はもちろんボイリー。荒川では珍しい白っぽい鯉は77cm。今日の四匹の釣果は、普段あまり竿を出さない位置で当たったものである。ひでさん

は、新しいロッド配置パターンを掴んだのかもしれない。

夕方5時を知らせる区の放送を聞きながら撤収。帰りの運転中、顔がほてる感覚がある。ずっと風に当たり続けていた

Monster Carp Fishing in Japan – Diary

のと、少し日焼け気味のせいだろうか。自分の釣果は残念だったが、今シーズンの初釣行にどことなく心地よい疲れを感じた。



荒川シーズンイン 2010.3.14 ぼらひで

今年初の荒川釣行、こぶちゃん親子と同行です。昨日の強い南風の良い影響を願いつつの釣行です。今日は大潮、橋脚周りのポイントを攻めることにする。

昨年よりタックルをヨーロッパスタイルに変更したが、徐々にメリット・デメリットがわかってきた。今日感じたデメリットはロッドポットで石が多いポイントを攻めるとラインが石に挟まってしまい、傷だらけになってしまうことだった。今までの鯉竿にベイトリールだった時は竿を寝かせていてもそれなりに水面から竿の位置まで高さがあったので全く気にならなかったのが今日はそのポイントに入ってしまったが、ほぼ水面と平行になってしまうロッドポッドを使うとかなり気になる。

で、午後からはポイントを変更した。ただ、ロッドポットは風が強く吹く荒川では非常にメリットがある。今日の私の餌はバズベイトと



同じ味のポップアップのスノーマン。フレーバーはレッドチェリー、スイスホワイトチョコレート、ロイヤルハニーの3種類。こぶちゃん親子はダンゴにコーン。

残念ながら私は釣果無しだっ

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

た（仕掛け回収時に鯉のウロコは釣れましたが：笑）がまたまたさきちゃんやってくれました！80cm、腹パンパンの鯉。さきちゃんと一緒にいくと必ずでかいのを釣っている気がする。こぶちゃんはヒットするが錘がかかりに入っしまい魚は付いているが出ない状態。そのまま出るのを待つが結局×。

鯉のもじり・ハネも多くあり、いよいよシーズンインです！！

隅田川の鯉よお 2010.2.14 ぼらひで

朝7時半、先々週にオフ会を開催した場所に、こぶちゃん親子とぼらひでの3名が集合。それぞれ思い思いの場所に竿をセッティングする。橋脚寄りからさきちゃん1本、こぶちゃん2本、少し離れてぼらひで2本。

早速、暖かいコーヒーを飲みながら話し始める。今日は大潮、順調なら10時頃までにはあたるはず。予定通り一発目のあたりは10時ちよっと前。こぶちゃんが80を若干切るサイズの隅田川特有のデブ



鯉をゲットする。幸先の良いスタートだ。写真を撮ろうとするが、さすがのこぶちゃんでも重たくてちゃんと持てない。さきちゃんのアシストでポーズも決まりパチリ！

本日は管理人殿もいらっしゃる予定でしたが、前日の雪により釣行断念。前日が雪だったとは思えないほどの好天でどちらかといえばこの時期にしては風もなく暖かい。東京も積もるまではいかなかったが終日雪が舞い、3人で「昨日が雪だったなんて信じられないねえ～」と話しているとテラスの上から「どうですか～？」との声。「あまり釣れない！」と返事すると「お久しぶりで～す！」と。えっ？誰？っ

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

てみると隅田川で爆釣経験豊富なFさん。帽子をかぶっていらっしやったのとゴーグルを付けていらっしやったのでわからなかった（笑）

失礼を詫び、しばらく歓談。最近の調子やHPが更新されていない事にクレーム（笑）をつけると「忙しくてさっ、はっはっは！」との事。また、Fさんが釣りすぎるから釣れなくなった！と口撃すると新しいポイントをいくつか教えてくれた（爆笑）HPが更新されていないと体の具合でも悪いんじゃないかと心配になるが、相変わらず釣りは続けていらっしやるそうで一安心。クレームをつけたので私たちも釣行記をUPしなきゃとこの日記を書いています（爆）教えていただいたポイントは機会があれば伺ってみます、ありがとうございますFさん。



しばらくして次は、さきちゃんだ！75位の同じくデブ鯉。前回同じポイントに竿を出したがあたらなかったさきちゃん。同じ場所に竿をだして見事リベンジ。

また、「おお釣れましたね！」との声。Fさんだよ！とっくに竿

を出すとっておられたポイントに向かったものだとばかり思っていたが、「ご飯食べてた！」だって（大笑）私たちのご飯はおでんにお餅。外で食べると美味しんだ、これが（笑）近くにスーパーマーケット

やコンビニがありここは本当に便利。トイレもちかくにあるので安心だ。



その後適当に当たりが続き、こぶちゃん・さきちゃん親子は70前後の鯉をゲットするが、こぶちゃんはおでんの牛スジを食べようとすると当たり、「今日は温かいスジが食べれない」とこぼす。

何故か私だけまったく当たりが無い(涙) その私に3時前待望の当たり! 久しぶりの当たりで十分にやり取りを楽しみ、ネットイン!の瞬間ピシッとハリスが切れる。鯉は網から逃げ水の中に消えていく…。あははははは～やっぱり私は釣れないんだあ～。ネット係りのこぶちゃんがすまなそうにしているが、まあこういうこともありますって!

その後も何度か当たりがあり、最終的に橋脚よりのさきちゃんが3ゲット1バラシ、こぶちゃんの橋脚よりの竿2ゲット1バラシ、1ゲット1バラシ、私の橋脚よりの竿1バラシ、ノーヒットと見事な並び(笑) お開きの時間となりました。

隅田川の鯉よお、来シーズン必ずや釣ってやるう!! 来月からはいよいよ荒川での釣りにトライします。

荒川釣り日和 2008.5.16 mi○

本日荒川オフ会を予定していたが、メンバーの都合が合わないので通常の荒川釣行となった。ひでさんとふたりで竿をセッティングし終わったのが7:30。潮は引いている途中で、下げ止まりの少し手前までの間に当たる確率が高い。早朝は曇りがちの天気だったが、これから次第に晴天になるようだ。

投入から30分ほど経った8時過ぎ、私の竿にヒット！強い引きを楽しんだあと、ひでさんの構えるタモに無事納まった鯉は75cm。幸先がいい。続いて9時過ぎに、再び私にヒット。今度は一気に下流に走られ、掛りに入られた。ひでさんの話では、このポイントの鯉は食った後に下流側の掛りに逃げ込む鯉が多いらしく、どうやらそこが鯉の居着いている場所のようだ。昔の護岸が現在は水中に沈んでいて、ちょうど距離的にはその掛りのあたりと一致するそうだ。工事の後が残っているのかもしれない。

ところで掛りに入った後であるが、竿を煽ってもびくともしないが、じっとしているとラインを通して微かに鯉の反応が感じられる。竿を



竿掛けに戻してラインをだらんとゆるめ、竿のそばで様子を伺った。7、8分ほどしたのだろうか。それまでコンコンと反応していた穂先がゆっくりと沈みはじめた。リールから手でラインを引き

だして送り込むと、さらにゆっくりとラインにテンションがかかる。何回かラインを送り込んだところで、上流に向かって鯉が急に泳ぎ出した。「よしっ！抜けた。」立ち上って竿を持ち、慎重に寄せてネットイン。一匹目より少しサイズアップして78cmだった。

陽が高くなり、腕や顔がじりじりしてきたので、日焼け止めを塗りまくった。この時期の荒川釣行で何度かひどい日焼けをしたことがあるため、今年は日焼け止めを準備した。

10時半、私に3匹目が当たった。70cmジャスト。ハタキの直後らしく、腹部が傷ついていたため、すぐにリリース。



そして、11時20分、ひでさんに当り！本日使用している竿は「拙者の石鯛400」。この竿で初めてのやり取りとなる。石鯛竿としては超軟調のこの竿の感触を楽しむように、ゆっくりと取り込みをする。お陰で私はタモを手にしなが、ひでさんのやり取りの写真を撮る時間が取れた。無事に取り込んだ鯉は76cm。新しい竿の感想は「柔らかいが、腰が強い。」だった。軟調とはいえ、

やはり石鯛竿である。

お昼を食べた後は、お昼寝の時間（笑）。顔を帽子で隠してベンチにゴロ寝すると、あっと言う間に眠りに吸い込まれる。なんか気持ちい〜い……。朝からアタリも続いているし、最高の釣り日和。ひでさんも小さな木陰で昼寝……。気がつくと、1時間近く寝込んだらしい。午後の当りに備えて餌を投入し直し、ひでさんと歓談して時を過ごす。

潮が引く時間からみると3時以降の当りが期待される中、3時50分、私の竿に午後の初当り！サイズは70cm。これもハタキの直後のようだった。さらに4時半頃、私に当りがあったが、これは途中でばらしてしまった。この当りを最後に5時過ぎに撤収。

結局ふたりで5本の釣果、すべて70cm台で型が揃っていた。今年の4月は例年に比べ食いが遅れているようすの荒川だったが、5月に入って本領発揮。体型のすばらしい鯉の強い引きを楽しむことができて、充実した一日であった。

隅田川寒鯉釣行会 2008.2.9 mi○

週間予報では9日(土)は雪。しかし、山岳部仕込みのこぶちゃんによる天気図の読みは、「降っても午後から。」前日になってからの天気予報は、みごとに午前中晴れ、午後から雪の予報になった。命をかけて山に登る男の読みは、やはり正確であった。

7時過ぎ、隅田川の目的のポイントに到着したところ、こぶちゃん親子はすでに竿を出し終わっていた。さきちゃんが駆け寄ってきて、「おはようございます!」。身を切るような寒さにも負けなくらい元気である。私が竿を出し終わる頃、ひでさんがバスに乗ってやって来る。これで今回のメンバー4人が揃った。潮の下げ止まりがお昼前で、10時過ぎからアタリが期待できる時間帯だろう。ひでさんのセットが終わって、まずは4人で歓談。

8時ちょうど、最初のアタリが私に来た。さらに15分後、同じ竿に入れ食いでまたアタリ。いずれも73cmの鯉で、幸先のよりスタートをきった。続いて8時半、今度はさきちゃんにアタリ。65cmの鯉で、彼女にとって今年の初鯉となった。8時台はこの3本のアタリで終了。これでアタリが途絶えたかと思い始めた9時15分、ひでさんの竿にアタリ! 運悪くひでさんはコンビニに買い物に行っている最中で、携帯をかけたが出ない。仕方なくこぶちゃんが竿を持って取り込んだ。サイズは60台だが、この鯉はひでさんの今年の初鯉である。ハリをはずした後タモにいれたまま川に鯉を浸け、ひでさんの

帰りを待った。数分後、ひでさんが帰って鯉を確認した後リリース。本人が竿から離れた時にアタリがあるのはよくあることだが、上げた鯉が竿の持ち主の釣果か、上げた人の釣果か議論になる場合がある。大会ならいざ知らず、MCFの釣行会ではそんなことは全く気にしない。竿から離れる場合はアタリがあることも覚悟の上で離れ、代わりに上げる人はギリギリまで本人が帰るのを待ち、来なければ上げる。ただそれだけのことである。

しばらくして、さきちゃんに再びアタリがあった。落ち着いた竿さばきで鯉を寄せ、お父さんがネットイン。60台前半のかわいい鯉で、ハリはずし後すぐにリリース。その直後、今度はこぶちゃんにアタリ。竿の曲がりとやりとりの感じからして、なかなか良型の気配である。ところが突然、ふっとラインのテンションが切れ、痛恨のブレイク。仕掛けを見ると、ハリの子モトでハリス切れしていた。ハリ結びもことのほか気を使っているこぶちゃんは、ショックを隠せない。それでもすぐに気を取り直し、エサを打ち直した。結局、9時台は3回アタリがあって2本のゲットであった。

10時台は、私に50、60台の計2本来た。今日は完全に型よりも数釣りの気配である。潮の下げ三分の時間帯に入った。11時過ぎ、こぶちゃんの竿にアタリ！しかし、こぶちゃんはトイレに行ってしまった。代わりにさきちゃんが竿を持ってやりとりする。ひでさんがタ

モを伸ばしてすくおうとしたところ、タモの柄がロックして伸びない。困っているところにこぶちゃんが帰ってきて、ひでさんとふたりでタモの柄を伸ばしっこ（笑）。なんとか無事にタモは伸びて、さきちゃん



んがやりとりした鯉をネットイン。この後で、こぶちゃんにまたアタリがあったが、やりとりの最中にハリがすっぽ抜けてバラシ。なんだか今日はついていないなあ。

お父さんとは対照的に、本日絶好調のさきちゃんに、またまたアタリ！今度は今までと手応えが違う。タモ入れしたこぶちゃんが、鯉を引き上げようとしたところ、思わず一言。「う～、重いなー！」 3mくらいのタモを、テラスの足元ほぼ真下に向かって目一杯伸ばしたところから引き上げるため、良型を引き上げるのは一苦勞である。本



日初の良型につき、慎重に計測した結果80cmジャスト。さきちゃんの自己タイ記録である。頑張っ

ってひとりで鯉を持ち上げ、記念撮影開始。2回シャッターを切ったところで、重さに耐えきれずに撮影終了。撮影中、私の竿にアタリがあった。カメラマンの私は手が離せない

さ～ん、こっちは心配いらないサイズだから、ゆっくり写していいよー！」と、ひでさん。さきちゃんの80cmをリリースしたタモで、そのままひでさんの鯉をネットイン。アタリ出すと大忙しになるのが、隅田川のゴカイ餌釣りである。結局11時台は4回アタリで3本ゲット。

お昼は、いつものように温かいものをつついたり、飲んだりして体を温めた。下げ止まりのせいだろう。12時台はアタリが途絶えた。

アタリがないと、すぐにタックル談義になるのが鯉師の性で、本日はこぶちゃんの竿作りの技術を詳しく教えていただいた。現在こぶちゃんは、隅田川用のオリジナルロッドを江戸和竿技術を駆使して製作中である。テラスでの釣りでは短い竿が使い勝手がいいため、グラスのブランクを使って鯉竿の調子を出し、細部にこだわった機能と芸術性を兼ね備えるロッドに仕上げている。最終工程が終わるのが今年夏頃だそうで、来年のゴカイ餌シーズンにデビューする見通しである。今のところ、ロッドの名称は「隅田川スペシャル」。今から楽しみである。

午後1時半、アタリが戻って来た。お辞儀した穂先はさきちゃんの竿である。71cmの鯉でこの竿には本日4本目。続いて2時20分、mi○のアタリは60台。

潮が上げ始め、ラインにゴミが絡んで時々上流に向かって流される。ふと見ると、ひでさんがこぶちゃんのテラス用タックルに巻尺を当てて盛んに寸法を測っている。手摺の形に合わせて木とゴム板で作った

竿受けの取付け台が気に入ったようで、次回の釣行までに自分も作り



たいとのこと。この手摺は上面が斜めにカーブしているのも、通常の竿受けの万力が使えない。こぶちゃんのアイデアがひでさんの創作意欲を掻き立てたようである。

私の竿をみると、ラインがだらんと垂れて上流側に流されている。完全にゴミが引っ掛かっているのも、一旦ラインを捲き上げてゴミをはずした。納竿まであまり時間がないが、ゴミをはずした後のハりに、短いゴカイが2匹まだ残っていたため再び投入しておいた。4時には納竿し終えてここを出発したい。先程のエサの投入から10分ほど経った3時40分、その竿を手にとってラインを回収しようとした瞬間、ぶるっと鯉の手応え。私にとってはジャストタイミング、鯉にとってはなんとも間が悪く、ちょうど食いに行ったところで竿を持ったために、偶然にもアワセた状態になっらしい。大した手応えでもなかったため、片付け始めたみんなに声もかけないでやりとりしていた。

少しするとこぶちゃんが私のやりとりに気が付き、タモを持って駆け付けてくれた。そうしている間に次第に鯉の抵抗が大きくなり、時折ラインを引きだし始めた。竿は「拙者の石鯛400」の軟調穂先を使っているため、ラインブレイクの心配はないが、口切れの恐れがあ

るため無理に寄せずに弱るのを待った。何度かラインを引きだした後、観念したかのように口を水面から上げ、こぶちゃんが構えたタモに納まった。



水から上げて見ると意外に大きい。ひでさんとこぶちゃんに検寸をお願いし、少し離れて結果を待っていたところ、「89cm」という声が聞こえた。偶然当たっちゃったとはいえ、嬉しいサイズである。それに胴体が丸太のよう

に太っていて、サイズ以上にこの重さが何とも嬉しい。記念撮影で鯉を持ち上げて姿勢を整える時に、こぶちゃんにアシストして頂き、シャッターはひでさんに切って頂いた。かじかんだ頬が思わずほころんだ。

本日は4人で竿7本、アタリ15回、釣果13本。まずまずの結果だが、場所によってアタリがある竿とない竿がはっきり分かれている。食ってくるエリアが非常に狭いポイントだと感じた。納竿時のラッキーな釣果を最後に、今回の隅田川釣行会は終了した。

携帯に入ったメールを見ると、「宇都宮は雪で真白」とカミサンからの情報。ここももうすぐ降り始めるのだろうか。やっぱり、こぶちゃんの子報は正確だなあ。

朝ごはんが食べられません 2007.8.24～27 mi○

所により40℃を超える気温を記録したこの夏は、8月の下旬を迎えても極暑が続いている。そんな気温の中でも水通しのよい川では良型の釣果の情報があるため、地鶏オヤジさんの誘いで常陸利根川に竿を出すことにした。

地鶏オヤジさんは金曜の24日夕方から入釣し、翌25日早朝には幸先よく80cm台と70cm台の2本上げることができた。夜間は竿のそばに車を置いて、日中気温が高くなると、車を日陰に移動して暑さをしのぐようにしている。

私が現地に到着したのは、25日の午後であった。車から出るのが億劫なくらいの暑さである。地鶏オヤジさんの誘導で川原まで車で入ると、近くに超有名な鯉師HSさんと、7月に北浦でお会いしたMMさんも入っていた。ストラクチャー寄りに竿を出している地鶏オヤジさんから、数十メートル下流のゆるいカーブ付近に竿を出し終わった頃には夕方近くになっており、少し暑さが和らいでいた。私は一晩だけの釣行になるので、今夜から明日の朝にかけてのアタリを一発狙うことになる。明日の早朝が最も期待が持てる時間帯だろう。

日が沈み、夏の星座がちらつく川原でろうそくを灯して地鶏オヤジさんと語り合った。蚊取り線香の煙が静かに舞い上がり、月明かりが私たちの影を地面に落とす。つまみはいつものように宮崎産の炭火焼地鶏。そういえば、最近宮崎県知事がこの地鶏を盛んに宣伝してい

るが、地鶏オヤジさんのおかげで何年も前からこうして地鶏を御馳走になっている。心地よい歯ごたえと炭火焼の香ばしさは、一度味わったら忘れられない。そうしている間にセンサーは鳴ることもなく、地鶏オヤジさんの酔いがまわった9時過ぎにお開きとした。

翌朝4時半、センサー音とともに、車に近いリールのクリックが勢いよく鳴り響いた。ワクワクしながら竿を手にとった瞬間に勢いよく走り出したが、軽くあわせるとすんなり寄ってくる。「ん～、型が小さいなあ・・・」50cm台の可愛い鯉をタモですくい、傷のない魚体を確認した後すぐにリリースした。食ってきた餌はタニシ。市販ボイリーもやや遠目に投入して様子を見ていたが、昨夜から穂先が頻繁に動くものの、センサーが入ることはなかった。

日が昇るとともに夜露が一気に蒸発し、無風状態も手伝って異常な蒸し暑さとなった。早朝のすがすがしさなど微塵もない。草むらのあちらこちらでは、様々な種類の蜘蛛。夜露で濡れた巣が乾くのをじっと待っている。巣の水玉が朝陽の中で輝いている。



7時頃、地鶏オヤジさんにヒット！！私が車で駆け付けた時には既に取り込んだ後だった。スケールを当てると80cmくらい。普段は納得できるサイズしか撮影しない地鶏オヤジさん。すぐに

リリースしようとしたが、無理にお願いして記念撮影させて頂いた（笑）。

その後気温がぐんぐん上昇し、11時にたまたま撤収。地鶏オヤジさんは連続休暇中なので、もう一泊していく予定である。撤収が終了して地鶏オヤジさんのところへ移動すると、利根川から早めに撤収してきた水郷アングラーさんが陣中見舞い。歓談しているうちに地鶏オヤジさんに3本立続けにヒット！ストラクチャーまわりに投入した竿が入れ食い状態になった。帰宅のはずがタモを持って走り回ることになり、嬉しい汗をかいた。アタリが一段落したところで帰路についてた。

翌27日の朝、仕事前に地鶏オヤジさんにメールをしてみると羨ましい返事が帰ってきた。

「連チャンで当って、忙しくて朝ごはんが食べられません。」
過去にもあったが、一緒に釣行すると地鶏おやじさんは時々アタリが止まらなくなるときがある。そうなったらもう手がつけられない勢いなので、そっとしておくに限る。一人でタモを持って走りまわる姿が目につかんでくる。地鶏オヤジさんはまた筋肉痛かなあ・・・（笑）。

北浦釣れないプチ釣行記 2007.7.21～22 mi○

週末の金曜日、都内の仕事を終えて宇都宮に帰ろうとすると、東京駅が妙に混んでいる。駅の掲示を見ると、事故で新幹線が数時間ストップしているとのことだった。

「今夜からの北浦は無理かなあ・・・」

とりあえず待機している新幹線に乗り込み、家にメールをして時間を潰していると、間もなく運転再開のアナウンスがあった。やれやれ・・・

自宅に到着し夕飯を済ました後、いつもならすぐに釣行準備に取り掛かるところだが、昨日、今日と連日の日帰り出張でバテバテ。この状態で運転していくのは危ないので、ちょっと仮眠を取ろうと布団に横になったら、次に目覚めた時は翌朝の6時だった（大笑）

よく考えたら、土曜の午前中は息子の高校の保護者面談があることを思い出した。カミサンに行ってもらってもできるが、せめてこれだけは毎年自分で行こうと思っているので、荷物をどっさり積んだ車で学校に寄り、そのまま釣り場に向かうことにした。

北浦に向かう途中、掲示板でお馴染みの、「はなくそまんきんたん」さんに連絡をしてみた。金曜から北浦に入釣していたが、ボイリーでナマズとボラが釣れたので、場所移動をしたとのことだった。携帯で話し終わった直後、突然携帯がブツッと切れ、ウンともスンとも言わなくなった。バッテリー切れかと思い、充電すると変に加熱する。怖～い！携帯を諦めて、何か心細い気分になりながら北浦に向かった。

午後になって北浦湖畔に付くと、めぼしいポイントには鯉師の車が止まっていた。ちょうど車の外で話をしている鯉師を見つけたので、窓を開けて声をかけてみた。

mi○：「アタリありますか〜？」

鯉師：「い〜っぱいあったよ！小さいけど（笑）。鯉釣りするの？」
一杯、いや二、三杯くらやった後だろうか、ずいぶんご機嫌である。

mi○：「はい、ちょっとやります。好きです。」

と返事をしたあと、あっ、この方は・・・と気が付いた。鯉釣りサイト「どォ〜んと鯉よ」の管理人「筑西の鯉太郎」さんとお友達の「H」さんである。鯉太郎さんは、ご丁寧に名刺をくださったので、私も名刺をお返ししたところmi○と気づいて下さり、一緒に記念撮影もして頂いた。そこへ、昨シーズンお会いした土浦野鯉会のSさんもいらして、4人でしばらく歓談。

後で分かったことだが、歓談中に掲示板でお馴染みの「水郷アングララー」さんもここを通過したそうである。今週の北浦は、なんだか妙に狭い世間になっていた。

いくら楽しいとはいえ、ポイントを決める前にあまりのんびりくつろいでいるわけにもいかず、再び車を走らせた。さらに行くと、以前北浦でご一緒したことがあるFC鯉太郎栃木支部長のMZさんが入釣していた。私より一足先に着いたらしい。さらにその先の水門に、赤い竿「烈火」と、赤い「フィッシャーマン」をセットしたはなくそま



まんきんたんさんを発見。まんきんたんさんは、今シーズン完全にボイリーだけで攻めていて、春から好釣果をあげているようだ。また、この辺はまんきんたんさんお得意のポイントのようで、ポイント

情報を詳細に教えていただいた。周囲を色々見た結果、定置網のそばに竿をセットすることにした。

今回は一泊の釣行なので、今夜から明け方までの一発勝負と思い、入念に底を探ってエサを打ち込み、コマセを撒いて終了。時計は午後5時。その後、コンビニの公衆電話から自宅に無事の連絡を入れた。釣り場から何も連絡を入れないでいると、これまでもたまにカミサンから「生きてるかー？」というメールが入ったことがあった。一応心配してくれているようなので、釣り場から連絡をするようにしている。

日没前から車中で横になって休んだ。夜10時頃、まんきんたんさんに一本目のアタリ。型は小さかったようだが、この時間にアタリがある日は、夜中にアタリが出るそうだ。予想通りまんきんたんさんは夜中にも何度かセンサーが入り、70台を上げたらしい。エサはソースボイリー20mm。一方私はというと、まったく反応がないまま、小雨の降る朝を迎えた。

まんきんたんさんは朝7時に撤収してご帰宅。私は10時に諦めて撤収。今年は思うように泊りがけ釣行ができないが、こうして一晩だ

けでも竿を出すといい気分転換になる。釣果が出るとさらによいが、それは次回の楽しみとしよう。今回のプチ釣行はこれでおしまい。

宇都宮忘年会 2005.12.17 mi○

オフシーズンに入り、しばらくご無沙汰していた秋田さんから携帯にメールが入る。宇都宮メンバーによる忘年会開催連絡だった。暫く会っていないメンバーもいるので何はともあれ「出席」の返信をした。



週末の17日土曜日。栃木県庁近くの料理屋の座敷で、あんこう鍋を囲んでの開催となった。山羊ちゃんとH野さんとは去年の春以来会っていないから、約一年半ぶりの対面となったが、二人ともちっともかわっていない。強いて言えば、H野さんのタトゥーフアッションが目新しいといえるかもしれない（笑）。両腕の柄はもちろん鯉！

話が弾んでくると、話題はやはり鯉釣りに。山羊ちゃんは今シーズン音沙汰無しだったが、しっかりセンサー改造に精を出していたそう

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

である。鯉がヒットすると、色々な電気機器が連動してONするらしい。来シーズン必見である。山羊ちゃん曰く、「こんなにセンサー作りを頑張ってもボウズだもんナー」まっ、いいじゃないか。



今シーズンもコンスタントにアオを上げた中ソンさんは、少し前に鯉カーを軽自動車からデリカに替えて御機嫌。お得意の木工技術を駆使した内装を来シーズン是非拝見するとしよう。「匠の

技」との噂あり。

平石さんは来春、二人目のお子さん誕生予定とのこと。「釣りは控えろ」というみんなの声を振り切るように、来シーズンの釣行に意欲を見せる。釣行回数は少なくても、平石さんならいつものようにきっちり結果を出すに違いない。



気がつくと、鯉釣りからいつの間にか子供の話題に移っている。秋田さんも子供の話しをし出すと、すっかりパパの顔になる。ちなみに秋田さん、平石さん、H野さんが同じ歳の子供がいて、山羊

ちゃん、中ソンさん、mi〇が同じ歳の子どもがいる。将来、オフ会は幼稚園状態になるかもしれない（笑）

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

あっという間に時間が過ぎて、二次会にGO！！ 「じゃ、二次会は室内釣り堀にいこう！」誰からともなく言い出した二次会案に、当然みんな大賛成。いつものリールザオに代えて、1メートルちょっとの小物竿に玉ウキを付けた仕掛けで、なぜかみんな真剣そのもの。次第に集中して無言になる（笑）時々あがる鯉に大歓声。この生簀の中でも最も大きそうなのをH野さんが上げて、またまた大盛り上がり。

「mi〇さ～ん、写真撮って」とH野さんの声がする。リリース前に写真撮影のクセが釣り堀でも抜けない（大笑）それにしてもH野さん、かわいい鯉を食っちゃダメだよ。（←実際はポーズだけです）

こうして今年の忘年会も幕を閉じた。個性溢れる仲間と、こうして釣り場以外でも楽しいひと時を過ごすことが出来た。あっ、いや・・・。

「釣り場以外」ではなくて、最後まで（室内の）釣り場だったか・・・
（笑）



晩秋の荒川に集合！ 2005.11.19 mi○



快晴の荒川だが、晩秋らしく気温はグンと下がっている。気温がこのところ低い日が続いているため、鯉の食いが低下しているかも知れない。今年ひでさんの顔を春以来拝見していないので、久々に会うのを楽しみに荒川に向かった。煮込みマッチョさんも群馬から駆けつけた。



エサの投入は9時。荒川ではいろんなエサをテストできるからおもしろい。ひでさんは食わせエサを三種類準備した。定番のコーンの他に100円ショップの芋

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

ヨウカン、発泡スチロール玉。マッチョさんはコーンを使用。私はコーン、ボイリー、シモリウキの三種類。寄せダンゴは三人三様の配合である。さてさて、アタリがあるのはどれだろう？発泡スチロール玉やシモリウキに食いついてこないかなあと、密かに期待する。

エサの投入後、間もなく左たまごさんが自転車で到着した。所用があつて、今回は陣中見舞いだけだそうだ。温かい飲み物を差し入れしてくれたので、さっそくみんなでいただきながら歓談した。どちらかと言えばミーティングのついでに竿を出しているようなものなので、竿を出すかどうかはあまり問題ではない。都合がつく時にこうして集まる事が大事である。

北風が川面を吹き抜ける。竿の向こうを小さなカヌーがゆっくりと下って行く。温かいものを食べたくなってきたので、3人それぞれシングルバーナーを出し、おでん、鍋物、チャンポンをグツグツ煮込む。話をしながら箸でつつき、フーフーいいながら食べる。最高である。



昼過ぎ、私の竿にヒット！食ってきたエサはコーンであった。そこそこ重量感のあるいい引きを楽しんだあと、マッチョさんが構えてくれたタモに導く。73cmの体長のわりには体高があるズ

Monster Carp Fishing in Japan – Diary

ッシリと重い鯉だった。この川の鯉は、胴の横幅もあってコロコロしている。地面に置くと自分で起き上がって匍匐（ほふく）前進しようとして、なかなか愛嬌がある。ひでさんに撮影していただいた後、リリースする。釣友と一緒に釣りを上げると、ひとりの時よりも数倍嬉しい。鯉は丸太のような太い胴体をゆっくりくねらせながら、水の中に姿を消していった。



午後になってやっと陽射しに
あたたかさを感じるようになってきた。護岸の階段に座っていた煮込みマッチョさんは、いつの間にかスヤスヤお昼寝のようす。私がひでさんのタックルを見てい

ると、ひでさんが「リールのハンドル曲がっちゃった・・・」と言う。見てみると確かに一台のリールが内側にグニャリと曲がっている。このポイントに着いてタックルの準備をしているときに、強風で自転車



が倒れた拍子に曲がってしまったようだ。ドラグまで一緒に曲がっている。たぶんドラグは機能に支障がないと思われるが、ハンドルはこのままでは使いにくい。ここを分解してハンドルを取り出

し、力づくで曲がり直せるだろうということで、ひでさんと意見が一致した。

その後さっぱりアタリがなく、陽がどんどん西空に落ちていく。河川敷に鳴り響く4時を知らせる区の放送を聴いた後、それぞれ納竿となった。いろいろなエサでトライしたものの、食い渋りのためにあまりテストにならなかった。その点は心残りだが、いつものように釣友と語らう楽しい一日を過ごすことができた。

ゴカイの時期の再会を誓い合いながら、夕暮れの河川敷を後にした。今回の釣行は私にとって今年最後。今年も1月の荒川オフ会に始まり、11月の荒川釣行で終了となった。

居酒屋「地鶏」霞ヶ浦に出店 2005.4.22~24 mi○

週末の金曜日、会社にいる携帯にメールが届く。前夜から霞ヶ浦に入っている地鶏オヤジさんからである。

「アタリ 2 回ありました。朝 7 時半に 50cm 台、10 時のアタリはすっぽ抜け。それでは仕事早く終わらせてください。待ってます。」

こんなメールをもらったら、もう落ち着いて仕事などしてられない。おまけに、

「近くで 90 近いのができました」

なんてことまで聞いたら、いよいよ限界である。しかし”やることをやってから釣り場に向かうべし”を信条としているため、はやる気持ちを押さえつつやっと返したメールが、

「うっ・・・、苦しい・・・調子が悪くなってきた・・・帰ろうかなあ。いかんいかん。まじめに働こう（笑）」

仕事を終え一旦家に帰って支度し、出発したのが夜の 9 時少し前。現地到着は 11 時を少し回っていた。到着早々、私が竿を出すポイントをライトで照らして確認している最中、地鶏オヤジさんのセンサーが鳴っている。ラインが引き出されている様子もなく、地鶏オヤジさんは「空アタリだろう」と少しの間穂先を眺めていた。するとゆっくと深く穂先が食い込んで、ついにラインが強く引き出される！「よーしっ、来た！」すかさず竿を手に取りアワセる地鶏さん。暫くして月明かりに照らされながら浮いてきた鯉は 85cm の良型であった。



冬のオフ会以来、釣りから遠ざかっていた地鶏オヤジさんにとって嬉しい一匹である。そしてこれから竿を出す私にとっても、希望が持てる嬉しい一匹である。記念撮影をして即リリースする。

私のセットが終了し、仕事疲れもあってすぐにシュラフに潜り込んだ。「今夜センサーの音で起こされますように・・・」しかし、こうした願いもむなしく熟睡し、翌朝はすっきり目覚める。地鶏さんも熟睡したようで、昨夜は結局あの一匹止まり。



23日（土）は天気に恵まれ、気温もぐんぐん上昇した。自転車で近所を散策したり、読書や昼寝をしたりと気ままに時間を過ごしながらアタリを待つ。しかし二人には一向にアタリはない。あっ

という間に一日が過ぎ、夕方を迎える。日が落ちる前に私はご飯を炊いて夕飯の支度をする。もうすぐ居酒屋”地鶏”の開店の時間である（笑）今夜のメニューはカツオとタコの刺し身と、おでん、ハムサラダ、サバ味噌、地鶏などなど。これを肴に地鶏オヤジさんは大好きなビールを飲み、私は大好きな炊きたてご飯に味噌汁を添えて豪華夕食。さら

にBGMは榎原敬之のDVD。こんなに幸せな思いをして、ひとりだった千円の割り勘。しかも食べきれずに冷蔵庫に仕舞って翌日食べることにする。

夜9時頃それぞれ就寝。夜中の3時過ぎにふっと目が覚めた。6時間くらい寝ると目が覚めてしまうようになったのは、やはり歳のせいに違いない。「こんな時に当たってくれたらなあ・・・」目が冴えてしまったので蛍光灯をつけて1時間ほど本を読んだ。空が白々とした4時過ぎ、突然メール着信音でビクッとする。「なあーんだ、メールか・・・」センサー音に常に敏感になっているため、携帯が鳴ってもつい反応してしまうのは鯉師の共通した習性であろう。送信者は利根川に入っている煮込みマッチョさんである。



「先ほど、小さいけど大本命が
ました。やっと120くらいですが
(笑)」

昨日すでに70cm台をあげて
いるマッチョさんは、ついに青魚
もゲット。今年も早春3月から好
調を維持している。さらに煮込み

マッチョさんはこの後80cm台の鯉もあげて絶好調であった。

そのまま就寝することなく、爽やかな朝を迎えた。今日も快晴である。相変わらずセンサーが鳴ることもなく、外の椅子に座って本を読んでいるところに「こんにちは！」とひとりの鯉師が訪問してくださ

った。一目見た瞬間、「以前どっかでお会いした方だなあ」と思ったが、それがどこだったかなかなか思い出せない。まあ、こうしたことはよくあることなので、「話をしているうちにきっと思い出せるに違いない」と考えながら暫く歓談した。自宅のことや出身地のことなど色々話して下さったあと釣りのホームグラウンドの話に入った瞬間、私の中でそれまでのすべての情報と名前が突然一致した。

「もしかして遠藤さんですか？」

「そうですよ。」

「失礼しました。私はmi〇です。いつもお世話になってます」

改めて深く礼をした。あの名門、淡水大魚研究会ホームページ管理人の遠藤さんである。これまで何度もメール連絡を頂いたりしていたが、直接お会いするのは今日が初めてである。どうりで「どっかでお会いした」と感じるわけである。遠藤さんが小西先生と同行した時の話やホームページ作り、ボイリー談議、さらには将来の釣りの夢などについて話が弾んでしばらくお引止めしてしまった。最後に記念撮影をお願いしたところ快くお受けくださり、近くの人にシャッターを押して



頂いた。30分強だったが充実したひとときであった。遠藤さんは、想像していた通り穏やかでかつ知的な紳士であった。末永くお付き合いさせていただきたいと願う。

遠藤さんが帰られた直後の10時。私の竿に待望のアタリがあった。竿に駆け寄る間、クリックは鳴りっ放しである。竿を手にした瞬間、かなりいい感じの手応えである。「やっと来てくれたか！」近くの杭の方にゆっくり向かおうとする鯉と慎重にやりとりする。地鶏さんも駆け寄ってきて、やりとりの最中の私を写真撮影するためにカメラを取り出し、撮影位置を決めようとした瞬間、釣り人にとって背筋も凍るようなあのいやな感触が伝わってきた。突然ふっとラインが軽くなるあの感触である。「あっ、バラシた・・・」あとは巻いたリールにむなしくラインが吸込まれるだけであった。最終日の午前中にアタリをもらうパターンは過去何度も経験したことであったため、かなり期待して待っていたのも事実であった。それだけにこのワンチャンスを逃したショックは大きい。しかしこれも自分の力量。真摯に受け止めることにしよう。

午後2時過ぎに納竿開始。自宅が近い地鶏さんより一足早い午後3時半に帰路についた。今回も釣果に恵まれなかったが、あの鯉とのやりとりの感触はさらに次回への期待を膨らませてくれるものである。地鶏オヤジさん、近いうちまたご一緒してください。

トムとマッチョと mi○と 2005.4.9~10 mi○

北関東もやっと桜の満開を向かえた4月9日の深夜0時、利根川から程近いコンビニで煮込みマッチョさんと待ち合わせをする。アオウオを狙うことができる広々としたポイントはないものかと思い、今回は一緒に新天地を開拓することにした。数箇所のポイントを巡った後、以前からマッチョさんが気になっていたという広い川原のポイントで底探りをするが、なかなか納得のいく川底の状態ではない。しかし川岸のテトラがもしかしたら幸運を呼ぶかもしれないと期待を抱いてここに竿を出すことに決定する。竿をセットしている最中、どこからともなく鶏の鳴き声が聞こえる。コマセを撒き終わり一息ついた頃にはすでに午前4時になっていた。マッチョさんと携帯受信機を交換し「お互いアタリがあったら起きてアシストしましょう」と約束して眠りについた。



明朝7時半頃トム石井さんからメールが入る。既に自宅を出発し、あと30分ほどで到着するらしい。半分寝ぼけて返信メールを打ち、またまた深い眠りについしまった。しばらくして車の窓を

コツコツ叩く音に目が覚める。「お早うございまーす！」 トム石井さん到着。

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

昨夜の肌寒さから一転して日中は気温がグングン上昇。天気はもちろん快晴。川原では春を謳歌するかのよう草花が咲き乱れる。ヒバリが懸命にはばたきながら鳴く声が聞こえる。ふと、「一年中こんな季節が続いたらどんなにいいだろうな」などと考えたりする。天気は申し分ないが、竿先は一向に動く気配がない。私は今回もタニシとボ



イリーの両方を使っている。トムさんとマッチョさんはタニシオンリー。一発でかいアタリがあることを祈りつつ、歓談したり昼寝したりと気ままに時間を過ごす。

あっという間に夕暮れが迫り、コマセを撒き直す。タニシに比べてボイリーは比重が大きいので、柄杓で遠くまで飛ばすことができる。その分遠くのポイントを攻めることも可能な点はメリットかもしれない。

夕食の後車で横になり本を読んでいるうち、眠気が襲ってきた。真夜中にセンサーの音で飛び起きる。時間は1時。アタリはボイリー。



「手応えがないなあ」と思いながら寄せてくると、何やら久々に見るシルエット。「やってしまったあー」大きなお口に立派なお髭のアメリカナマズ。しかもなかなか

のサイズ。この一発で、ボイラーはアメリカナマズ対策にはならないことが判明した。

朝を向かえ、お互いアタリの有無を確認し合うもさびしい結果だった。そういえば私がナマズを釣ってしまった時、マッチョさんは熟睡していたとばかり思っていたら、何のことはない。マッチョさんに渡っていた私の受信機は、ちょうどバッテリー切れで鳴っていなかったらしい。結果的には起こすと申し訳ない状況だったので、ラッキーといえるだろう。

お昼過ぎから徐々に強くなり始めた南風の中、竿を納めることにした。新天地開拓は甘くないことを認識しつつも、帰路に着く前にさらに別のポイントをトム石井さんに案内していただいた。次回はこの辺でも攻めてみようか・・・

地鶏オヤジさんの巨鯉釣り教室 2004.9.3～5 mi○

「前はこっこのポイントに来てもらったので、今回は地鶏オヤジさんの好きな場所で釣りましょうよ！」と連絡したところ、「それじゃ、霞ヶ浦で！」ということで、今回は私にとって今シーズン初の霞ヶ浦釣行となった。地鶏オヤジさんの庭のような場所だけあって、事前に詳細なポイント解説をメールしてくださった。お勧めポイント7箇所に優先順位がついている。解説を頼りに3日金曜の夜現地に着。付近には鯉師はまるで入っていない。もちろん一番のお勧めポイントに入るが、地鶏オヤジさんは深夜まで仕事とのことで、明日の昼の到着である。9月に入り、ついこの間までの暑さがウソのように過ぎやすくなり、急激に秋の気配が漂うようになってきた。虫の鳴く声を聞きながら竿をセッティングする。鯉のハネが随所にあつて、期待が高まる。今回のエサはタニシとボイリーである。シルヴァンさん直伝のボイリーがはたして霞ヶ浦で通用するか興味深い。特に霞ヶ浦はアメリカナマズが数多く生息しているため、吸込みでは確実に鯉よりもナマズの方がよく釣れてくる。ナマズの猛攻をかわすことができるかどうか第一の関門といえる。

深夜0時過ぎ、アタリを祈りながらベッドに横になる。虫もほとんど飛んでいないため、車の窓を少し開けてウトウトとする。暑くも寒くもない、実に心地よい気温である。次第に深い眠りに入る・・・。

ピピピピピ・・・！ センサーの音に飛び起きる。時間は午前3時過ぎ。アタリはタニシエサの竿である。急いで車から降り、タモを持って竿に駆け寄る。リールのスプールを押さえて大きくアワセるが、手応えがあまりない。あまり抵抗することもなく素直に寄ってきた鯉は40センチ台のかわいい鯉であった。すかさずハリをはずしてそっとリリース。大きくなるんだぞ・・・。再びベッドでウトウトし意識が遠くなったかと思うと、またもやセンサーON。あまり時間が経っていないかと思っただ、時計を見ると4時半。今度もタニシの竿のセンサーが入っている。今度こそ手応えがありますよという願いもむなしく、またまたあまり抵抗することもなく素直に寄ってきた鯉は、50センチくらいの緋鯉であった。最近タニシにも随分と小さな鯉が喰ってくるようになったものだ。空が次第に明るんできた。もうすぐ夜明けである。ラジオをつけると、久々に聞く演歌番組。そういえば学生のころはよく深夜から明け方までラジオを聴いてたなあ。

しばらくして少し眠気が襲ってきたのでもう一度寝ることにする。外は完全に明るくなっているため、タオルをアイマスク代わりに乗せて熟睡。・・・と、またまたセンサーON！今度はボイリーの竿にヒット。時間は7時。穂先を見ると、明らかに鯉の引きである。ナマズでないことに一安心。竿を手にして慎重に寄せると、あがってきた鯉は60センチ程度であった。サイズはともかく、まずはボイリー初の釣果がとても嬉しい。ハリをはずしてすぐにリリースするやいなや、今度はタニシの竿にヒット！今度こそはという願いもまたまたむなし

く、40センチ台のかわいい鯉がこんにちは・・・ ここには小鯉しかいないの？いやいやそんなはずはない。地鶏オヤジさんのおすすめポイントである。きっとそのうちガッツーンと来るはず。



昨夜は気がつかなかったが、少し離れたところに希少価値となってしまったアサザが美しく花を咲かせている。実際に花が咲いているのを見るのはこれがはじめてである。こうした植物は特に

みんなで大切に育てていきたいものである。

午前中はこのアタリを最後にパツタリと止まってしまった。軽い朝食をとって近くを散歩したり、本を読んだり気ままに時間を過ごす。昼前に地鶏オヤジさんにメールを入れると、もう出発しているとのこと。お昼頃には到着のようである。

昨年の秋、霞ヶ浦はKHVに襲われ、養鯉業者は大変な打撃を受けたのはあまりに有名である。今シーズンの鯉釣りにも少なからず影響が出るものと想像していたが、釣れた鯉は今のところすべて健康な魚体でホッとする。さらに霞ヶ浦では一部で試験的に鯉の養殖を再開したとのニュースもあり、徐々に本来の状態に戻りつつあるのは実に喜ばしい限りである。

昼頃、地鶏オヤジさんが到着し、やや離れた舟周りに竿を出す。こども数々の実績がある一級ポイント。手際よく竿をセッティングし終わった地鶏オヤジさんは、私にワンポイントアドバイスをくれる。それは私が竿を出している少し横の3本杭のすぐ向こうにエサを打ち込むと、確実に喰ってくるはずとのこと。しかもサイズは90センチレベルが来るそうである。言われるがままに一番遠い竿をそこに移動し、コマセタニシを集中的に撒く。これで本当に釣れたら、でき過ぎた話であるが・・・

夕方、少し雨がパラついて来た。あれこれと歓談していた私と地鶏オヤジさんは、それぞれの車に避難した。予報では今夜から雨もようとのことである。車内で簡単に夕食を済ませくつろぐ頃には雨が本格的に降り始めてきた。時間は7時。不意をつくように受信機がボイリーへのヒットを知らせる。雨の中、Tシャツ姿で飛び出してひとりでタモ入れする。まあまあ大きさが、いかんせん雨が強くなってきたので写真撮影用にライブバックに入れて水に沈め、急いで車に避難する。もう既に全身ずぶ濡れ状態のため、洋服を全部着替えて地鶏オヤジさんに携帯で釣果報告。雨はいよいよ強くなるため、明日の朝の写真撮影をお願いし休息する。

雨が降りしきる中、この日の夜中にもタニシに2度ヒットしたが、いずれも40、50センチレベルの小鯉に終わった。小鯉の群れがこの辺に居座っているのだろうか？かつて吸込みに小鯉が連続ヒットしたことはあるが、タニシにこれほど小鯉が続くのは初めてである。

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

5日、日曜日の朝を迎える。幸い雨もおさまり 朝のエサ換えを済ませて、昨夜の鯉の撮影をしてもらうことにした。サイズは82センチ



ながら、ボイリーが霞ヶ浦でも通用することの証明には十分なサイズであろう。サイズ以上の喜びがこみ上げてくる。鯉を持って記念撮影、カシャ！

その時、センサーON！今度はタニシにヒット。大きく合わせると一瞬いやな手応え。シマッタ、掛かりに入ってしまった。強引にあおったところで無駄だと思い、ピトンに竿を置いてそっとようすを見る。かすかに穂先がピクピク動く。スプールをフリーにして手でラインを引張りだしてやると、出した分のラインがピンと張られる。何度かこれを繰り返しているうち、ついにドラグがジーッ！掛かりから抜けて戦闘開始。慎重に寄せて地鶏オヤジさんにタモ入れしていただく。細身だがそこそこいいサイズのようなのである。すぐに計測したところ、9



0センチジャスト。ここまでボイリーにお株を奪われていたタニシが、ついに本領を發揮した。「小鯉が来ても我慢して釣っているうちに必ず大型が混じる」と昨日から言っていた地鶏オヤジさん

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

の言葉通りになった。さすがに自分の庭と称するポイントである。

さらに驚いたことには、この後の10時半、昨日地鶏オヤジさんが必ず喰ってくると言った3本杭に打ち込んだ竿にヒット！離れた所から必死でダッシュする間、ドラグは鳴りっ放し。ラインを70、80



メートルくらい引き出されただろうか、途中で何度か引き込まれつつ寄せた鯉は88センチ。ポイントのみならず、釣れる鯉のサイズまで言い当てた地鶏オヤジさんには本当に脱帽である。

今回は小鯉の連続ヒットで始まり、途中ボイリーでの釣果あり、そして最後は満足なサイズがヒットするという最高の釣行となった。地鶏オヤジさんとはいうと、今回は完全に私への指導に徹したためかアタリが遠く、私が帰宅後に1匹ヒットさせ納竿となったとのこと。地鶏オヤジさんの巨鯉釣り教室は本当に釣れます！有難うございました～♪

寒い北浦で 2004.6.25～27 mi○

予報では今年の夏は昨年とは違って暑い夏になるそうである。梅雨の季節も後半に差し掛かり、本格的な夏が来る前に北浦で糸を垂れることにした。前回の北浦釣行では人気ポイントに行ったため好きな所に竿を出すことができなかったが、今回は誰も入釣しそうなないのでのんびり過ごすことにした。

週末金曜日の夜、目指すポイントに到着したのが10時過ぎ。最近これと言った釣果が聞かれない場所だけに、案の定誰も竿を出していない。車から降りた瞬間「うっ、寒い！」 家からTシャツとハーフパンツにサンダルで夏服で行ったのだが、とても外に出ていられないくらい気温が低い。まずは靴下とズボンを履き、水門の右側にタックルをセットする。このポイントに竿を出すのは初めてだが、以前から竿を出してみたいと思っていた所である。真っ暗な湖面にライトを当てて見ると、どうも水質があまりよくない。まあとにかく今夜は仕事の疲れもあるし、セットしたら早々に休むことにしよう。



翌朝すっきり目が覚める。センサーも鳴らずによく寝た～（笑）
天気は曇りで、今日も幸いあまり暑くなりそうにない。いつもの習慣で、朝からあっちこっち写真を撮りながら散歩しつつ、改めて水

質を見るとアオコが発生し深緑色をしている。バケツに水を汲むと内側に粉っぽくアオコが付着するほどである。犬の散歩に来た地元のおばちゃんも「な～んだか随分水が悪くなっちゃったねー」と声をかけてきた。風もあまり吹かないし、今日はあまり期待が持てない感じがする。

今夜、地鶏オヤジさんが到着する予定だが、それまで退屈だから今日は本を読むことにしよう！普段から本を買い溜めしているが、自宅では集中的に読む時間が取れないので釣り場で一気に読んでしまうことが多い。今回は3冊選んで持って行き、この日は続けて二冊読み終えた。と言うか正確には、読み疲れたら途中で昼寝しつつ二冊読み終えた。ん～、充実感！ いや、待てよ！オレは釣りに来ていたんだ・・・でもまっ、いいか。

夜になって地鶏オヤジさんがやって来た。やはりTシャツにハーフパンツ姿で車から降りてきて「うわ～っ、寒～い！」 昨夜よりもさらに気温が低いようだ。私はTシャツの上にトレーナーを着て、さらに防寒着まで着ている。もう6月の末だと言うのになんという寒さ。さっそく上着を着て水門の左側に竿をセットする地鶏オヤジさんの行動をひとつひとつ眺めていると、手際が良くて実に見事である。特にエサの打ち込みはフワッと柔らかく、しかも正確でいつも感心する。セット終了してから少し歓談した後、今夜のアタリを祈りつつお互い車に潜り込んで就寝。

うっすらとした明るさにふっと目が覚め、一瞬家で寝ているかと錯覚したが車の中であることを思い出し「あー、昨夜もアタリがなかったんだなあ・・・」と時計を見た。4時17分。と、次の瞬間センサー音が「ピピピピピ・・・」なんというタイミングの良さ！待ってましたとばかりに外に飛び出し、竿のそばに駆け寄る。糸が右の乱杭の方にゆっくりと動いて、それに連れて穂先が深く入る。竿を持ちしっかりとアワセると、まずまずの手応え。あせらずに慎重に寄せて浮かせると姿が見えるが、2、3度深く突っ込まれ糸が出て行く。いつもながらこの糸が引き出されるやり取りの時間が最高の幸せ！最後に観念したかのように浮いた鯉をタモに寄せて無事にネットイン！

ちょうどタモを引き上げる時に地鶏オヤジさんが車から出て来てくれた。地鶏オヤジさんも4時にセンサーが鳴ったが空アタリだったと



のこと。草の上にタモを移動して地鶏オヤジさんに写真を撮っていただいた。サイズは83cm。デブ鯉が多い北浦にしては珍しくスマートな鯉で、川鯉のような体型をしている。

さらに6時ごろに50cm台、8時50分に73cmと順調にヒット。さらに11時に来た鯉は70cm前後と思われるが手前まで寄せたところでスッポ抜けてバラシ。



早朝のアタリ以降センサーが黙り込んでいる地鶏オヤジさんは、少し離れた河口近くに場所移動。かなり浅いポイントだが、一発大物を狙うことに。

地鶏カーでDVD鑑賞しながら楽しい昼食を済ませ、mi〇は2時頃に納竿。一方いつもよりビールがすすんだ地鶏オヤジさんはぐっすり昼寝。起こすのも申し訳ないくらい熟睡していたが、3時少し前に声をかけて「お先に失礼！」翌日も休みの地鶏オヤジさんは引き続き残ることになった。

今回の北浦はとにかく寒いのと、アオコの濃さに驚いた。水質改善のためにアシなどを増やしつつあるが、それはまだほんの一部であり一向に改善の兆しは見られない。釣り場は少なくなるだろうが、もっと大幅にアシを増やすなどして自然の浄化作用の改善をはかれるのを祈る。

GW 利根川釣行記 2004.5.2～4 mi○

5月2日の夕方、ひでさんと利根川で落ち合うことにした。二人ともまだアオウオを釣ったことがない。そんなに簡単にお目にかかることはできないのわかっているが、なぜか引き付けられるものがある。2泊3日の釣行で果たして幸運を引き当てることができるだろうか。

当日は早めに出発したが途中の渋滞にはまり、1時間ほど余計にかかってしまった。現地に到着すると、息子さんのユウ君を連れてひでさんが既に到着していた。ポイントには数名の先客が入っていたが、いずれも当りは遠いとのこと。岸边を見て回り、二人で最も上流側に竿を並べることにした。ここは岸から数メートル先からどん深で、5、6メートル程度はありそうだ。霞ヶ浦などと違いオモリが底に着くまで異常に長く感じられ、モンスターの存在を実感させるに十分な水深である。

セット終了後、お互いの携帯受信機を交換して車にもぐり込んだ。急に休みが取れた地鶏オヤジさんも、明日ここに合流するとの連絡が入る。MCFの他のメンバーも利根川のお気に入りのポイントにそれぞれ入釣しているそうだ。夜中のヒットに備え、今夜は早めにベッドに横になる。

夜中の1時過ぎ、ひでさんの受信機が鳴り響く。偶然にも私はその少し前に目が覚めていたので、すかさず車から出てタモを手にする。やや遅れてひでさんが車から飛び出し、竿に駆け寄る。やりとりの末

タモに納まったのは65cmの元気な鯉だった。真夜中だというのに



ユウ君も起き出し、パパと一緒に記念撮影！普段からホームグラウンドの荒川でパパの釣りに同行しているため、撮影ポーズもとっさに決めることができる。

この夜はこの一本の当たりで朝を迎えた。春の川原は雑草もまだ背丈が低いため景色もよく、気持ちがいい眺めである。対岸からはキジの鳴く声も聞こえてくる。この時期の利根川は水の流れはゆるやかな上に天気も穏やかなため、自然を満喫することができる。

昼過ぎに地鶏オヤジさんが到着。新車の内装を自分でコツコツと改造し、まだ完成していないとのことであるが、ご覧の通りすでにお座敷付き小料理屋並みの車内となっている。名付けて「居酒屋 地鶏」メニューは刺身、焼き鳥、おでん、サラダ、カレー等々なんでもありの夕食となった。先代の地鶏カーでもすでに電子レンジや冷蔵庫付き



であったが、今回はさらにグレードアップしているので、内装が完成した際には特集を組んで皆様にお披露目できると思います。ご期待ください。

満腹になったところで宴会もお開き。今夜もセンサーが入ることを祈りつつ、3人でお互いの携帯受信機を交換してベッドに着いた。夜中から強風が吹き荒れ、車がグラグラ揺れるほどで、時々目が覚めた。夜中の2時過ぎ、今夜もひでさんの受信機が鳴り響く。さらに早朝の5時過ぎにもひでさんに連続してヒット！ いずれも元気一杯の綺麗な鯉であった。

最終日の4日は夜が明けてからも強風が吹きつける厳しい天気が続いた。私は昨日から穂先は入るがすっぽ抜けがあったり、センサーのクリップのみ外れてスイッチが入らず、10号の道糸を切られて逃げられたりとしばしばチャンスを逃がしていた。なんとか残り数時間で当たって欲しいと願うが、あまりの強風に穂先も振られてやや期待薄の感もある。今のうちトイレにでも行ってこようと、受信機を地鶏オヤジさんに渡してコンビニに向かった。片道15分くらいかかりそうだが、川原を数分走っていくと幸運にも仮設トイレがあるのを見つけ、「ここでイイヤ」と用を足してすぐに戻る。

戻って少しすると、私のセンサーON！ 時間は午前10時少し前。穂先がしっかり入っているの風当たりではない。竿を持って合わせるとそこそこイイ感じの手応えだが、なじみのある感触なのでアオではなくたぶん鯉だろうと感じた。ただ、水深があるためいつもの横走りのやり取りではなく、下に突っ込む走り。海釣りにやや似た感覚で結構楽しめる。2、3度ほど下に突っ込まれつつも無事に浮かせてひ

ひでさんにタモ入れしてもらい、さらに地鶏オヤジさんに撮影してもら



う。利根川の鯉だけあって流線型の均整のとれた鯉である。いつものことながら川鯉とのやり取りは格別である。雄大君は大喜びし、何度も私に抱きついて祝福してくれた。本当にありがとう。

その後ひでさんは納竿し、一足先に帰宅。私と地鶏オヤジさんは強風につき地鶏カーで昼食をとりながら歓談していたが、ますます強風になり、二人のセンサーが同時に風当たりでONになったりし始めたので諦めて納竿することに。午後1時半をまわったところで二人とも帰路に着くことになった。

またしても本命のアオウオには巡り会えなかったが、ひでさん、ユウ君、地鶏オヤジさんと楽しいひと時を過ごすことができた。皆に心より感謝します。

新春荒川釣行会 2004.1.3 mi○

真っ暗な空が次第に明るさを帯びてくる。ラジオから今日の最高気温 14℃。日の出は6時51分。ヘッドライトを消して川口JCTを通過。自動車道を走りながら向かえる夜明けは実に爽快である。予定の7時より5分程遅れてひでさんの自宅前に到着。そしてまもなく地鶏オヤジさんも到着。昨年に引き続き、新春釣行会を荒川で開催することになった。いつものように自転車にタックルを積み込みいざ荒川へ！



風もなく穏やかな川辺に到着し、さっそく準備に取り掛かる。今日のポイントはひでさんお得意の橋脚周りである。昨日ひでさんが朝一番で仕入れてくれたゴカイをハリ付けし、本年の第一投

目。周辺では鯉のモジリも見られて期待も高まる。8時過ぎにセット終了。正月とは思えないほどの暖かさに、防寒着を脱いでちょうどいいくらいである。

8時30分、mi○のセンサーON！少し離れた野球場のベンチから竿に向かってダッシュ！竿がお辞儀しているのが見える・・・が、竿に近づくうちに穂先が戻りラインが垂れる。竿を持ってても手応えなしで空アタリに終わる。

その後アタリはなく穏やかに時間が過ぎる。気温もますます上昇し、



後の野球場では何組かの家族が
凧揚げを楽しんでいる。いつの時
代もかわらない正月の光景はな
かなかいいものである。ベンチで
は地鶏オヤジさんがスヤスヤ…

11時過ぎ、少し早い昼食の準備。それぞれ持ち寄ったお昼を3人でつつきながら楽しく歓談する。地鶏オヤジさんはマス鯰、ひでさんは鍋物、mi○はおでん。打ち合わせたわけでもないが、メニューがかぶらないのが不思議な気もする。マス鯰は包んである笹の葉と鯰の絶妙な風味を楽しみ、鍋とおでんはバーナーでグツグツ煮込んでフーフーいいながら食べると、これが最高！



お腹も膨れてそろそろ鯉の顔
が見たくなってくる。12時30
分、待望のアタリがmi○の竿に！
あまり穂先が深く入っていない
ので少し心配して竿を持ってア
ワセると、ちゃんと鯉の手応えが

ある。地鶏オヤジさんにカメラを渡し久々の鯉の引きを楽しんだ後、慎重にひでさんの持つタモに寄せて無事にネットイン。寒ゴイとはいえ、やはり川鯉の引き味は格別である。



荒川の寒ゴイはゴカイを腹一杯喰っているせいか、みんな胴体がまん丸でゴロっとした断面形状である。この鯉も同様に、草の上に置いて計測しようとするとき自分でコロっと起き上がって腹ばい姿勢になり、ちょうどアオウ

オ状態になるのには驚いた。何度も横に倒すがまた起き上がる。計測の結果は79cm。今年の初鯉としては実に嬉しい良型であった。

さらに1時45分、今度はひでさんの穂先が入る！今度は地鶏オヤ



ジさんがタモ係で無事にネットイン。荒川特有の、ヒレが少し赤みがかかった黄金鯉で、サイズは64cmと縁起物の初鯉としては申し分ない型である。

それからまもなくして対岸を眺めていると、葦原からなにやら炎がチラチラ見え始めた。始めは誰か焚き火でもしているのかと思い、こんな乾燥しているときに危ないなと見ていた。ところがそれが見る見るうちに燃え広がっていく。さすがにこれ以上は危ないと判断したひでさんは119番に通報。数分後に消防車が数台駆けつけて消化したが、あっという間に相当の範囲で葦が消失した。特に乾燥している季

節なので焚き火は厳禁であることはもちろんだが、タバコの始末などは十分に注意してほしいものである。



さらにもう一言付け加えておく。鎮火後、警察や消防署を含め数箇所からひでさん宛てに状況を問い合わせる電話が入った。問い合わせの内容はどちらも全く同じで住所、氏名、年齢、職業、通報当時の状況など・・・ネットワークが整備されているこの時代に、横の繋がりのなさには呆れてしまう。通報者である市民に負担を掛けないう改善を願う。



話を戻そう。その後アタリが止まったため、早めの3時30分に納竿することにした。今日は終始風もなく暖かな天候に恵まれ、楽しく過ごすことができた。今回もエサの準備とポイントガイドをしてくれたひでさんに深く感謝します。

連敗脱出！荒川釣行記 2003.11.23 mi○

前回11月9日の荒川釣行が私の釣り納めでした。しかし、「釣らなきゃ釣り納めになんないよ～」とか、「5連敗のまま今年終わったらダメ」とか、各方面から激励の言葉をいただき、気が付いて見ればなぜか今週も荒川にいました。今回もちろんガイド役はひでさん。ポイントは前回とまったく同じところで、エサもまたまたひでさんに準備してもらいました。さらに、竿掛けを刺す位置までひでさんに微妙に直してもらおうという、もはや「絶対に釣らせてやる」という執念がひしひしと感じられます。持つべきものはやはり友ですね！

8時頃セット終了。今日はすぐ後の野球場での試合もなく、静かに釣りが出来そうです。例年よりも暖かい秋とはいえ朝の冷え込みがやや厳しく、日中の水温は8℃。前回のような好条件は揃っていませんが、センサーが鳴るのを待ちつつしばらく歓談。

9時40分、待望の1本目が私に来ました。サイズは50cm台で



すが、久々のヒットに思わず頬が緩んでしまいます。ひでさんにカメラを渡して記念撮影。やっとなが～いトンネルから脱出した感じがします。その後二人ともエサを打ち換えて待つこと1時間半、

今度はひでさんの穂先が入ったっ！慎重なやり取りの末上がった鯉は、76cmの良型でした。



午前中に二人とも釣果があり、まずは一安心といったところでお腹がすいてきました。今回はひでさんが購入したてのシングルバーナーを持参してくれたので、おでんやモツ鍋、カップラーメンなど温かいもののオンパレード。さらにコーヒーも入れて飲める最高の昼食を楽しみました。自転車釣行なので、荷物は最小限に減らさなければなりません。コンパクトに折りたたむことができるこのバーナーならもう二度と手放せなくなりそうです。

食事の後はアタリもなく穏やかに時間が過ぎていきます。今日は対岸にも釣り人が見当たりません。時折太陽が雲に隠れると、急に風が冷たく感じられます。もうすぐ11月も終わり、そろそろ暮れの慌しい季節になっていきます。



納竿の時間を気にしだした3時半過ぎ、ひでさんのセンサーON！鯉の引きを楽しんだ後に無事に取り込み終了しました。今年のダンゴ最後の釣果は50cm

台の綺麗な鯉でした・・・と思ったら、実は最後におまけ付き。ひでさんが竿を仕舞っていると、何やら仕掛けにくっ付いてきたものあり。そばに寄って見るとマルタウグイ。これがダンゴでの最後の釣果でした（笑）

今回はひでさんのおかげでなんとか釣り納めすることが出来ました。また、いろいろ心配してくださった皆様、6連敗を免れたことをご報告します（^ ^;

次はいよいよゴカイシーズン。寒さ知らずの荒川釣行記をこれからも掲載していきますのでお楽しみに！

帰国祝賀釣行 2003.7.9～13 ぼらひで・mi○



5月6月と釣りの絶好シーズンというのに、仕事で海外出張になってしまった地鶏オヤジさんがついに帰国しました。今回は帰国祝賀釣行ということで、地鶏オヤジさん、ひでさん、mi○の3人

が北浦の通り慣れたポイントに向かいました。実は理由はどうでもよくって、ただみんな釣りがしたいだけだったのです。9日の夜に地鶏オヤジさんが入釣、続いて10日の夜にmi○、ひでさんの順に入釣しました。さて今回はどんな釣行になることやら・・・

(ここからひでさん執筆)



7/10の晩8時半に愛犬とともに自宅を出発する。平日のお泊まり釣行ではカミサン一人では4匹の犬の散歩ができないので1匹同行することになった。本当は2匹と言われたが天候が悪い

予報だったので1匹で勘弁してもらった(笑)すでに地鶏オヤジ殿は70台をゲット、管理人殿は先に到着しているとの事、慌てず忘れ物が無いようにとチェックし出発する。

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

到着は10時半過ぎ、湖畔は真っ暗だが、有名なポイントには所々鯉釣りと思われる車が止まっている。強風の中皆さんに手伝ってもらい竿4本セット完了！天候が悪く、ゆっくり話す事も出来ないので今日は早めに寝ることにした。

翌日は6時に起床、夜中にアタリは無くぐっすり眠れた。10時過ぎに地鶏オヤジ殿がコンビニに買い物に出発、管理人殿とブラブラしているとどこか遠くからセンサーの音色！実はポータブル受信機が壊れて、車載の受信機しか音が拾えなくなっていた。自分の竿を見ると1番竿の穂先が入っている！慌てて竿に駆け寄るが手ごたえがイマイ



チ・・・管理人殿のアシストにてネットイン。案の定60クラスだがとりあえずボウズは免れたので一安心。しかし今日は暑い！日焼けで顔・手足が真っ赤になってしまった！

夕方、地鶏オヤジ殿のお土産の辛いカップヌードルをご馳走になるが、お湯を入れたとたんに凄い雷雨！しかたなく車の中で食べる。

翌日朝4時半、センサーの音色で起こされる、2番竿だ！愛犬も一緒に車を飛び降り竿に駆け寄る。昨日よりは少しはマシな手ごたえだ！一人でネットイン（60台）し管理人殿・地鶏オヤジ殿を起こしに行く。地鶏オヤジ殿は直ぐ飛び起きてきたが管理人殿の車の窓をコツコツたたいても起きて来ない。何度か繰り返すがまるで反応が無い

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

のでセンサーのスイッチを入れるが起きて来ない・・・、なんか嫌な感じ・・・。だが無理矢理に起こすサイズでも無いので少し様子を見ることにし、地鶏オヤジ殿に写真を撮ってもらいリリース。竿をセットし犬の散歩に行こうと思っていると遠くのほうから歩いてくるおじさん（笑）がこっちを見てる。私もまだ寝ぼけていたので直ぐそばに来るまでわからなかったが管理人殿だった！「イヤー、水門の向こうまで散歩してきました！」ガクッ、これじゃ車叩いても、センサーのスイッチ入れても起きてこないはずだ（笑）

その後、管理人殿・地鶏オヤジ殿は移動するとの事だが、私は今日帰るのでこのままで良いと申しでてここでお二人とはお別れ！



その後11時頃、暑くなったので撤収！帰りの途中、雑誌にもちょくちょく登場されている花〇さんを見かけたので停車し、しばらく話込む。しかし、本当にお年の割りにお元気（失礼）で頭が下がります。私たちは1BOXカーで横になって眠れるようになっているが、花〇さんは国産のSUVタイプの車で、運転席にて運転姿勢にて待機&眠られる様だ。案の定今日もそのスタイルでアタリをお待ちでいらっしやっつし、今回も北浦に1週間ほどいらっしやる予定との事。東京のナンバーのお車だが全国の釣り場にお出向きになられている様だし・・・、実際私が初めてお会いしたのも三方の第三駐車場だ。私が花〇さんの年になったとき同じことができるだろうか？と考えるととても無理に思える・・・、でもMCFの目標は第100回オフ会開催だからがんばらなくっちゃ・・・ねっお二人さん！（大笑）

（ここからmi〇執筆）

さて、ひでさんと別れた後mi〇と地鶏さんはしばらく湖岸を南に走ると、今日は土曜日とあって要所要所にすでに鯉師が入っています。昨年爆釣したポイントは今年はそれほどでもないというものの、やはり竿が並んでいます。そこで思い切って対岸に行ってみることにしました。この辺の対岸は地鶏さんもmi〇も初めてとあって、どの辺がいいのかよくわかりませんでした。周辺の状況と湖底の状態そしてあてにならない感を頼りに小さな水門をポイントとして選びました。向か

って左に地鶏さん、そして右側にmi○が竿を出します。セット終了したのが午前10時頃。

午後になって霞ヶ浦に入釣している平石さんが訪問してくれました。竿を出したままどうせ釣れる時間帯じゃないということで片道20分くらいのコースを来てくれたそうですが、この行動力と彼独特の釣りに対する感の鋭さには毎度の事ながら脱帽です。今年から乗り換えた鯉釣り専用車エブリイを拝見しながら3人で歓談しました。とその時、mi○の2番竿のクリックが激しく鳴ります。駆けつけて竿を持つも手応えなし。残念！空アタリでした。

夕方水門そばで手竿のウキ釣りを楽しみました。夕まずめを狙ったので入れ食い状態になり、50cmクラスを頭に小鯉を計5匹。道糸2号でのやり取りは実に楽しいものです。これからさらにウキ釣りにのめり込みそうな予感！

二人ともアタリはなく、夜も早めに車にもぐり込みました。熟睡していると、待望のセンサー音♪ 時間は4時15分。6番竿から糸が出ているので期待してアワセると、そこそこの手応え。今日は釣行最終



日なので、きっとこれが最後のチャンスと思い、他の竿から離れるようにいつもよりも慎重に慎重に寄せて無事にネットイン。サイズの割には体重がありそうな北浦特有のデブ鯉でした。久々にや

り取り中の糸鳴りを味わうことができて大満足です。

午前中から激しく雨が降り続き、昼過ぎにmi〇が納竿。そして地鶏さんは1時間くらい後に納竿。今シーズンは皆それぞれ仕事や家庭の事情で昨シーズンほど釣りが出来ないのですが、それでもこうして集まって釣りをしていると、日常から開放され実に楽しい時間を過ごすことができます。秋に再会を約束して家路につきました。ひでさん、真っ赤になった日焼けお大事に！

北浦&霞ヶ浦釣行 2003.4.27～29 ぼらひで&mi○

(はじめは、ひでさん執筆)

出発前夜の23時過ぎ地鶏オヤジさんからタニシの差し入れのメールをもらったので常磐道経由で行く予定を東関道経由に変更し一路北浦へ向かう。

地鶏オヤジさん宅にてタニシを受け取り潮来インターから県道50号線を目的のポイントに向い車を走らせていると、前を走っていた軽ワゴンが突然左の縁石に衝突し横転した。右折の為停車していた車に気付くのが遅れたようでまるでスローモーションの様に回転して運転席を下にして止まった。「ゲー、ヤナモン見ちゃったなあ・・・」と思いつつも、慌ててハザードを点滅させ車を止め救助に向かう。車の中には初老のご夫婦。「大丈夫ですかあー？」と声をかけると「ダイジョブだあ」と返事、奥さんも車の中ですっ飛んでいたがとりあえず命には別状無さそう。直ぐに110番し、状況を伝え救急車を依頼する。しかし残念なのは右折しようとしていた車・・・バス釣りに来ていた若者2人組の様に見えたが、さっさと釣りの用意をして行ってしまった。まあ、単独事故だから右折しようとしていた車に非は無いと思うが、それにしても車が横転し道路をふさいでいるのを知っているんだから何か出来る事はあるだろう・・・と思った。

かれこれ現場で一時間ほど時間を要してしまっただが、未だ大会開催時間中なので慌てる事は無い。管理人殿と待ち合わせをした約束の時間に遅れることを電話で伝え、約束の場所に向かう。30分後に到着、

Monster Carp Fishing in Japan – Diary

先に到着した管理人殿が現地の状況を聞いてくれたが状況はかなり厳しい。とは言え自分だけは釣れると思い（釣り人の悪い性・・・：笑）管理人殿とドックの左右に分かれて竿を4本セットする。管理人殿がドックの左側、私が右側だ。個人的な事情で釣り道具一式売ってしまったので今はこの4本しか無い・・・まあ数出せば釣れる訳では無いと分かってはいるが・・・寂しい（笑）天気も良く、人助け（当然だが）したし、北浦の水神様が「よくやった」と褒めてくださると信じてドックの船道めがけて第一投。



夕食は管理人殿がご飯を炊いてくださったので、スーパーの惣菜を買ってきてとても釣りに来ているとは思えない様な夕食にありつけた。その後餌を打ちかえ冷え込んで来たので早めに車に入り、TVの野球中継を見るとGはまた負けている。しかしチャンスだ！打ったあ、同点、逆転、追加点と連打・連打！結局勝った（ニッコリ）その後眠りにつき朝までぐっすり。一度もあたりが無く、前任者から通算100時間近くアタリが無い事になるので、思い切って管理人殿に移動を持ちかけると即OKなので、一路霞に向かう。



到着後、2時間半で直ぐにセンサーON！地元のおじさんと話しているときだった。自分の竿はなんとも無いように見えたので慌てて管理人殿の竿に向かって走り出すと管理人殿もこちらに

向かって走ってくる（笑）「あれっ？」自分の竿か？！ってことは・・・そうです、また小鯉保護団体にチェックされてしまいました、推定50cm。

夕食はまたも近くに出来た大型スーパーマーケットに買出し。ここは良い、なんでも売ってるし、惣菜等食品も安いし種類も多い。その後夜10:00頃センサーON！管理人殿が慌ててタモを持ってきてくれるが必要無し、推定40cm。

夜中センサーが入らなかったが朝起きると管理人殿が「あれっ？糸が大分斜めになっていますよ！？」あげてみると魚は付いていない・・・きっと小物だったんだと思う。最後のエサ打ちを終え片付けを始める。

（ここだけ mi○が書きます）

そうこうしているうち、ついに mi○のセンサーが入りました。おおうっ！ 久々に聞くこの音・・・ ヒットした竿はタニシダンゴをつけたもの。今回 mi○は通常のタニシ仕掛けで4本の竿を出して手前の

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

ポイントを攻め、タニシダンゴ仕掛けで2本の竿を出して遠目のポイントを狙いました。前回の霞釣行ではボウズに終わったので、これでちょっとはホッとしました・・・あついやいや、取り込みまでは油断禁物！ 手ごたえはイマイチだったものの、慎重に寄せてひでさんに



タモいれをしていただきました。タニシダンゴにヒットしたことで、もう大満足です。これで食ってくるのがわかれば、あとはサイズは時の運。今後の釣行に大いに参考になりました。

(ここから、再度ひでさん執筆)

いや～、今回もタイムアップ。まず1本目、魚が付いている(笑) 推定30cm。更に2本片付け、最後の1本を巻き上げ、仕掛けを外そうとしてスイベルを見ると魚の卵・・・こんなところにはたいてる・・・。参った。小物をいじめてマズイと思っていたが、まさか魚になる前の卵までいじめるとは思いもしなかった(笑) 今年の4月の霞での釣果



は合計430cm程、これで一匹なら最高なんだけどなあ(爆笑) その後、新規ポイント開拓の為ぐる～っと周って帰るが、途中なかなか良さそうなところが数箇所あった。今後狙いたいなあ。

新春爆釣会 2003.1.4 mi○

今年の釣りも荒川のゴカイ釣りで開幕。荒川の土手に立った瞬間に目に飛び込んできたのは富士の姿。思わず最初のシャッターを切る。新春からすがすがしい景色を眺めて気分は上々。土手を越え自転車を走らせる。前を走るガイド役は、もちろんひでさん。さらに爽快に自



転車を走らせる地鶏さんも続く。ひでさんの息子さんの雄君も私達をガイドしてくれる。今回のポイントは、ひでさんの本命中の本命ポイント。少し下流に向った最初の橋桁まわりを攻める。

9時過ぎにポイント到着。上流からmi○、地鶏さん、ひでさんの順に、それぞれ二本ずつ竿を並べる。今日は大潮。ポイント、潮まわりとも文句はないのだが、はたして今日は食ってくれるだろうか？



10時30分、mi○に最初のヒット。小型ながら丸々と太ったきれいな鯉に思わず頬が緩む。さらに11時、今度は地鶏さんにヒット。これもきれいな60cm台の鯉。連続ヒットにガイドひでさん

も思わずホッとしたようです。しかしこれで終わってはいけない。荒川の実力はまだまだこれからである。



続いて11時20分。またまたmi〇にヒット。手応えが鯉じゃない！タモ入れしたひでさんが魚を見て、「あれ？この魚なんだろう？？」覗き込む3人だが、どう

も見なれない魚である。大きさは50cm程度だが、ニゴイでもなくシーバスでもない。「とりあえず写真撮っておこう」ということになって、正体不明のままリリース。これは後で調べた事だが、どうやら「マルタウグイ」らしい。フライでこれを狙う人もいるくらいポピュラーな魚種らしく、汽水域に多く生息しウグイの中でも最も大型種なのだそうだ。（参考：成美堂出版 「川・湖・池の魚」ほか）

11時50分、地鶏さんにヒット。今度はなかなか引きが強い。余



裕の中にもスキを見せない地鶏さんの竿さばきで上がってきた鯉は丸々太った82cm。荒川は魚のエサが豊富にあるらしく、一般の河川の鯉に比べて体重が重いようである。

お昼過ぎに地鶏さんに50cm台がヒットした後、皆でバーナーを囲んで地鶏（←地鶏さんじゃないよ！）を焼いて食べる。もちろん地鶏さん提供の宮崎直送地鶏。冬はやはり暖かい物が最高においしい。



昨日の雪から一転して、今日は防寒着を脱いで気持ちがいいくらい
の天気。お腹も膨れて午後の時
合いを待つ。

2時過ぎ、ひでさんのセンサー
が入るも残念ながら空あたり。今

日はこれで3、4回空あたりが続いてなかなか乗らない。

C-FRIENDSのKUMさんも近くで釣りをしているとの情報があったので、ひでさんが電話してみると、隣に見える鉄橋の下流対岸に入っているとそうだ。電話を代わってもらい私も新年の挨拶をする。

KUMさんは70cm台混じりの4本をあげて好調らしいが、さらにサイズアップを狙っているとのこと。お互いの健闘を祈りつつ電話を終わる。



2時半近くにまたまた地鶏さ
んの竿にヒット。先ほどのヒット
より更に引きが強く、皆の期待が
高まる中無事に取り込んだ鯉は
本日最高の86cm。昨年的好調
をまだまだ持続させる地鶏さん。

4時に納竿し、下町のもんじゃ焼き屋さんに向う。今まで知らなかつたのだが、もんじゃ焼きにはかなり種類があるようで、店のメニュー

一にはもんじゃ焼きだけでもズラーっと20種類くらい並んでいる。今日は「ミックスもんじゃ」に「チーズもんじゃ」「カレーもんじゃ」の3種類。フーフーいいながら食べる「もんじゃ」は一日の疲れがぶっ飛ぶおいしさである。特に最後に食べたカレーもんじゃは食欲をそそる刺激があって、夏バテの食欲が落ちた時でも最高だというひでさんの言葉にも納得できる。

一同満足して店を出、それぞれ帰路につく。今日は天気もよかった上に初鯉もゲット。地鶏さんにおいては80cm台2本のヒットもあって、今年も地鶏パワー炸裂を予感させる新春爆釣会となった。最高のポイントと豊富なゴカイを準備してくれたひでさんには心より感謝します。またアタリを待つ間、あゆとモーニング娘の歌とダンスで楽しませてくれたユウ君、どうもありがとう。

宇都宮忘年会 2002.12.21 mi○

週末の21日土曜日、宇都宮メンバーとその家族による忘年会が開催されました。今回幹事役をしてくれたのは山羊ちゃん。地元でも評判の「炭火焼肉”牛角”御幸町店」を予約。当日の予報では午後から雪となっていました、雨は降ったものの幸い雪になる事もなく時間通り集合しました。

店に入り予約者名の「モンスターワールド！」と告げると、大勢の順番待ちの客を横目に、店奥の予約コーナーに通され少し気分良好！mi○が入店するやいなや、まもなく山羊ちゃん夫妻、H野夫妻が到着。続いて秋田夫妻（←もうすぐ）と平石夫妻も到着で合計9名の参加となりました。

乾杯の直後からもういつもの釣り場での飲み会と同じモードに入ります。釣り談議あり家庭の話ありでわいわいガヤガヤ。そんな中で、山羊ちゃん夫妻は結婚前に霞ヶ浦でバス釣りデートをした話を披露。夜はロマンチックに・・・と思いきや、なんと湖岸のコンクリートに



テントを張って寝たんだそうです。奥様の感想は「水の音が怖くて全然寝られなかった・・・」確かに水から数十cmしか離れていないところじゃあんまりだよー山羊ちゃん！

Monster Carp Fishing in Japan – Diary

秋田さんの（もうすぐ）奥様は、北浦の鯉釣りに「私も連れてってー」と秋田さんに頼むのですが、「お前の考えているような釣りじゃ



ない！」などと硬派ぶって連れていこうとしません。皆からは「いいじゃない、行こうよ」という声も上がっているのに、本当は連れていくとヤバイ事情でもあるの？秋田さん（^^）

平石さんは久々に会ったらなんか見た感じが違っていました。聞く所によると、最近奥様の勧めでモミアゲをのばしているんだそうです。ルパンみたいにしたらしい。奥様はいつ会っても（といっても私は



2回目ですが）優しそうな感じで、きついつも筋斗雲にのった孫悟空の平石さんを手の中で飛ばしているんでしょう（勝手な想像でスママセン）



H野さんの奥様は山羊ちゃんの奥様の妹です。両家はしょっちゅう行き来しているそうです。H野さんは自分の家の鍵を持っていなくて、今までに4回くらい自分の家に入るのに山羊ちゃん

の奥様が持っている合鍵を借りに行ったとか。よかったね、姉妹が近くで。



こんな話しをしている合間に酒を運んでくるこの店の副店長「ウッディー」さんが、「実は私も鯉釣りやるんですよー」と自分の釣果写真を見せてくれました。ウッディーさん曰く「来年勝負し

ましょう」一同、この挑発には黙ってられない。酒の勢いもあって、「じゃあ、こっちが勝ったら今度この店でタダで宴会だぞー！」でも負けたらどうなるんだろ・・・

結局、店の割引券をもらいつつ深夜1時くらいまで宴会は続き、気分よく解散となりました。ウッディーさんの営業トークにまんまとはまって楽しく過ごしました。（さすが副店長！）

Y岸さんとひでさんは仕事の都合と距離の都合で今回参加できませんでしたが、いつかご家族同伴でどこかで忘年会でもやりましょう。

MCF Japan 2002年のオフライン活動はこれで終了です。このページをご覧になってくださった皆様、サイト開設以来どうもありがとうございました。来年もまた早々に荒川釣行を予定しておりますのでお楽しみに！

HP 開設祝賀パーティ 2002.9.1 ぼらひで、mi○

(ぼらひでさんの報告)

9 / 1、月も替わったが、秋の気配どころか未だ真夏の様である。結局朝遅くなり荒川をウロウロし橋の下に竿をセットするが、水が汚い。先々週の濁流のなごりか？ゴミが一杯。

鯉のハネはあるが、時間が経つにつれ、回りにハゼ釣りの人が増えてくる。そ 1 1 時ころmi○さんからTEL、宇都宮はオフ会状態だそう。会話中に宇都宮チームの誰かのセンサーが入った音が聞こえる。ちょうど山羊ちゃんと話していたが、「釣れた、じゃーねー」と電話を切られる。あまりの暑さと風の強さで午前中で上がろうかとも思っていたが、あのセンサー音で火が点いてしまった。ここでポイント移動、前回良い思いをしたところだ。まったく日陰が無いが、もう鯉が釣れる事しか頭に無い。



1 2 時半、セット完了、へっへっへこれで今日も釣れるさ！暇つぶしに側のグラウンドでやっている野球を見る。足立区で登録したチームによるリーグ戦が毎週日曜日行われている。ところが

アクシデント発生！土手に直接打球が当たるとホームラン、直接もしくはワンバウンド他で土手の手前の道路に出ると 2 塁打と言うルールになっている様だが、今日は風が強く、しかもホームからライトへの

フォローの風の為、ライト方面への大飛球が多い。左バッターがライトへの大飛球！道路で大きくボールが跳ねる、2塁打！軟球なので判断はしやすいと思った。ところが審判の判定はホームラン、しかも逆転ホームランだ！私から見ても明らかに道路に落ちたので2塁打だと思ったが・・・「エッ？かわいそうに・・・」と思った。一応抗議はしたが審判の判定は絶対、覆るはずも無い。審判も抗議を聞くどころか、試合進行を促す・・・と言うより脅し。「時間が過ぎたら新しいインニングに入りませんよ！」。この一言が、相手チーム関係者以外の全ての人を味方につけた。もちろん私もその一人で、当然応援したくなる。点差は3点、がんばれと思う気持ちがひとつになる。ランナーが出るが、すでに2アウト。万事休すかと思ったが、ここでピッチャーが連続フォアボールで何と満塁。こんなアマチュア野球でも、やはり勝ちに拘ってプレッシャーがあるのだろう。次打者がボックスに入るとき、チームメイトから「お前のもっとも好きなシチュエーションだよ！」の声。こんな時必ず何かする人っていますよね、初球、予想通りセンターへのライナー性の当たり。相手チームのセンターは取れない、おまけに道路にもボールは出ず転々と転がる。逆転満塁ホームランだ！スゲー、やったね！！その裏の攻撃もピッチャーがしっかり抑えて、めでたく勝利したのでした、パチパチパチ。

まだまだハプニングが続く。笑いの本番はコッチ。次の試合も釣れないのでなんとなく見ていた。カーン！ライトへの高いが浅いフライだ・・・、風が強い為かライトは目測が狂っている様だ。次の瞬間が

ーンとボールが跳ねた！そう、デコぱっちんだ。以前中日の宇野選手がやったアレ！しかもその跳ねたボールをカバーに入っていたセンターがノーバウンドでキャッチ！アウトだよ！！一瞬の静寂のあと、大爆笑！！ギャッハッハッハ！！私も失礼だったが声を出して大笑いしてしまった。書いている今でも思い出すと可笑しい・・・アッハッハ、ウケ狙いで出来るほど高度な技術を持ち合わせているとは思えないし・・・アッハッハ、本人も頭を下げながら大笑いしている。本当に可笑しかった、魚は全然釣れなかったが、良い物見せていただいたので気分的には満足して帰路についた。アッハッハッハッハ・・・久しぶりに腹の底から笑いましたよ！だから、今日はね、釣行記じゃなくて観戦記です。アハハッ！



ところで、荒川でとうとうバスを発見してしまいました。といっても死骸だが・・・。私は決してバスが嫌いではないが、やはりそのおかげで生態系が崩れているのは事実なのかなあとも思うの

で、むやみな放流はイケナイと思う。ウワサで数年前からバスがいるとか、釣れたとか聞いていたが実際に見るのは初めてである。バスやギルなど一度住み着いてしまったら駆除はまず無理だろう。誰が放流したのかわからないが、出来れば従来の生態系を残して欲しいと思う。むやみな放流は止めて欲しいと思う。タナゴやクチボソなどが当たり

前にいる川に戻って欲しいと思う。みんながルールを守って楽しいバス釣り・鯉釣り・その他の釣りを楽しみたいものだ・・・。

(HP開設祝賀パーティ・・・ここからmi〇、山羊：写真)

こうしてひでさんが荒川で野球観戦をしているころ、栃木ではMCF JapanのHP開設祝賀パーティが開催されていました。実はこれ、特にみんな集まろうなんて決めていたわけではありませんでしたが、現地に到着してみると次々と栃木メンバーが集結して、いつのまにか盛大なパーティー（もちろん鯉釣り）になってしまったのです。この模様をmi〇が報告します。

朝7時半起床。昨夜HPの開設を行って、結局寝たのが1時をまわっていたので寝坊してしまった。掲示板で秋田さんと山羊さんが例の沼に行ってるとのカキコミがあったので、時間は分からないがこれから行ってみることにする。私にとって6月以来の釣りなので、道具を車に積みこむのに、いつもより時間がかかってしまい、出発したのが8時半くらいになっていた。途中で山羊さんに連絡を取ってみると、ちょうど仮面ライダーを見終わって今から出るそうだ。次に秋田さんに連絡を取ってみると、さっきエサを打ち込んだとのこと。な～んだ、全然寝坊じゃなかったんだ・・・ 地元釣行だと、こんなにお気軽に出掛けられるのが嬉しい。

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

現地に着くと秋田さんの横に若い女性が！ 瞬間的に秋田さんの彼女と気がつく。「おはようございます」なかなか感じのいい方だ（秋田さんじゃないよ！）。聞くと秋田さんの釣りにくっついて来たのはこれで2度目とのこと。ここで彼女が釣りに理解を示してくれるかどうかで今後の秋田さんの釣行回数が決まると言っても過言ではないのだが、きっとこの二人ならうまく行くだろうなんてオジサンの感想を持ちながら竿出しをするのでした。

ダンゴを握っていると、背後に停まった車から「おはようございまーす」と山羊さん。助手席にはかわいい息子さんを乗せている。駿くん4歳。今日が初めての釣りとのこと。つづいてその後にH野さん。



エサ打ちも終わって秋田さんの所に行くと、今度は平石夫妻到着。愛犬も車から駆け下りてくる。結局集まったのは8人+1匹。これはもうオフ会の乗りです。

11時過ぎ、mi○のセンサーがピピピッ、ピピピッ・・・一番離れた所に竿出ししていたので、山羊さんの自転車を借りて一目散に走り出す。後を見ると、自転車で追っかけてくる人あり、車に乗って追っかけてくる人ありでもう大変な騒ぎ。北浦でもこんな騒ぎになんないよねえ。平石さんのタモ入れのアシストと、山羊さんのハリはずしのおかげで、きれいな60弱の鯉をゲットすることができました（み

んなアリガトウ)。リリース後に秋田さんの所に戻る途中、H野さんの竿がお辞儀している。H野さんが車で掛けつけ、大きく合わせたがこれは外れてしまい残念。

1 1時半ころ、地鶏さんに電話してみたがあいにく留守番電話。次に荒川にいるはずのひでさんに電話してみると、ぜーんぜんダメとのこと。少し話しをしたあと山羊さんに電話を代わっているうち、秋田さんとmi○の脳裏にある事がよぎりました。mi○は胸ポケットから受信機を取って秋田さんに渡し、秋田さんは話しをしている山羊さんの電話のそばに受信機を近づける。mi○はおもむろに車に戻って、使っていないセンサーをON!!ピピピッ、ピピピッ・・・ここで山羊さんの迫真のアドリブ演技「あっ、来た、来たー、当たってるーっ!ひでさんそれじゃー」電話を切って、みんな大爆笑! ひでさん、騙してゴメンナサーイm(_)m (ひでさんの釣行記を見てビックリ。これでひでさんに火をつけてしまったとは・・・)

地鶏さんから電話があって、今日は大方の予想を裏切って自宅にいるとのこと。HP開設のお祝いの言葉をいただきました。(有り難うご



ざいます) 暑かったのでみんなでアイスクリームを食べて涼をとったあと、再びH野さんのセンサーON! またしてもみんな戦闘モードに入り、mi○は車でタモ運び、山羊さんは駿くんをおんぶし

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

てダッシュ！タモ入れはやはり平石さんで、今度は無事60弱の鯉を取りこみました。

すばやくリリースしてダンゴを打ちこんでいるうちに、またまたH野さんのセンサーON。本部の秋田さんのところに戻っていた面々は再



び戦闘モードでダッシュ。今度はタモに柄がない状態で、平石さんが取りこみ。足元がすべりやすいのでアブナイ、アブナイ。さっきよりも少し型がUPしました。

気が付くとお昼も過ぎ、だいぶ気温も上昇してきたので、今日は一斉に納竿。駿くん残念だったけど、今度は絶対にでっかいの釣ろうね！パパと一緒にキャスティングじょうずだったよ！H野さん、今日は恐れ入りました。みなさん今月のオフ会でまたご一緒しましょう♪

思い通りには／田舎はいいね～ 2002.8.24～25 ぼらひで
／山羊

(ひでさんの報告)

先週の好調（好釣？）で気を良くし、北浦まで足を運ぶ。嫌でも期待に胸が膨らむ。娘と息子と愛犬で総勢4名。夏休み最後の休みなので子供達とオートキャンプを兼ねて出かける。本命の秋田さんには相手にされず（笑）、地鶏オヤジさんと一緒のはずだったが私より仕事の方が好き（大笑）なようでフラれる……。山羊ちゃんに用事があるので連絡、OKとの返事をもらい現地にて会う約束。（山羊ちゃんが3番目って訳じゃナイヨ！mi○さんもいるからネッ！爆笑）

午前中にタニシを採り、3時頃北浦に着く。さあ、どこに入ろうかとウロウロするが目指していた数箇所のポイントはどこも先人が居り入れない。結局妥協してポイントに入る。4時半に竿4本をセットし、子供たちと晩ご飯の準備。今日のメニューは炭焼きBBQと鳥皮のヤキトリとコンビニおにぎり。山羊ちゃんは6時半頃の到着との事なので、それにあわせて炭をおこしていると、予定時間を一時間も早く山羊ちゃんが到着。まだ準備出来てねえよ！（笑）炭焼きの鳥皮（塩だよなあ、やっぱり！）を食べ、BBQもまあまあの味で腹が一杯。その後、山羊ちゃんと歓談、デカイ魚がバシャ～ン、バシャ～ンとはねている。こりゃ夜中だなと思ひ、10時半頃車の中へ……。寝る前に「また2時頃センサー入って起こされるんでしょう？！」おお、我

が娘、いい事言うジャン！そうそう、その通り、でかいのが来るからねっとカメラを準備。

夜中、対岸で民家の火事。村内放送とけたたましい消防自動車の音！こちら側では某草族のオニイサンたちが走り回っている。私はどこでも寝られるので熟睡だったが、山羊ちゃんは3時まで眠れなかったそうです。

朝6時に起床。案外涼しい。子供たちは朝から食欲旺盛でカレーをパクついている。

9時、やはり暑くなってきたのでもう帰ることにした。えっ？釣果？題名でわかったでしょ！なら、ここまで読ませるなって！？、失礼しましたあ！！（笑）

（山羊ちゃんの報告）



ひでさんが帰ったあとに心あたたまる、田舎ならではの出来事がありました。地元のおばちゃんが、「これさっきゆでたとうきびだけどうかい？」と、とうもろこしを2つ持って声をかけて

くれたので喜んで頂きました。

その後アタリも無かったので11時ごろ上がりましたがおかげで、とてもいい気分です。帰宅できました。田舎はいいね～。帰宅後秋田、H

Monster Carp Fishing in Japan - Diary

野と地元の川で鯉釣りに行く予定でしたが、私だけ息子とカブトムシ採りに行きました。メス2匹採れました。鯉は釣れませんでした、息子とのカブトムシの成果はありましたので良かったです。

お・し・ま・い

